

意思決定論

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

意思決定は我々の日常生活から組織体の活動に至るまで欠かすことのできない行為であり、特に企業においては組織の存続に関わることも多く、意思決定を効果的に行うためには情報収集・現状分析・代替行為の決定といった一連の情報処理プロセスを理論的根拠に基づき実践することが必要となる。

本講義では、人間の主観的判断の計測や収集情報の整理、問題構造の分析等を支援する際に有効となる意思決定支援手法やアルゴリズムについて学習する。また、これらの手法の適用事例も適時紹介する。

【授業の展開計画】

本講義では、意思決定を支援する手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	意思決定支援手法の概要
2	意思決定基準 (i)
3	意思決定基準 (ii)
4	意思決定と確率 (i)
5	意思決定と確率 (ii)
6	期待値と期待効用
7	主観確率
8	主観的判断の計測と階層分析法 (i)
9	主観的判断の計測と階層分析法 (ii)
10	階層構造と構造化アルゴリズム (i)
11	階層構造と構造化アルゴリズム (ii)
12	マルコフ連鎖 (i)
13	マルコフ連鎖 (ii)
14	リスクと不確実性 (i)
15	リスクと不確実性 (ii)
16	

【履修上の注意事項】

第1回目の講義に欠席したものは、登録を取り消す場合があるので、必ず出席すること。
また、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とするので注意すること。

【評価方法】

試験結果、レポート、出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第1回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

- (1) 木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」, 近代科学社
- (2) 松原望 著「意思決定の基礎」, 朝倉出版

ウェブデザイン演習

担当教員 安里 肇、平良直之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネット上で情報を発信する場合にはHTMLを用いてウェブサイトを構築するのが一般的である。HTMLの特徴として文字情報だけではなく、音声、画像、アニメーション等の視覚的にアプローチできるマルチメディア媒体である。本演習では、Adobe社のPhotoshop, Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、ウェブサイトのデザインを各自に試作してもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス/受講受付
2	Photoshopの基本操作
3	Photoshopのペイントツール
4	Photoshopによる選択ツール
5	Photoshopによる画像補正と色調補正
6	Photoshopによる画像合成とフィルタ
7	Photoshopによるロゴの作成
8	Illustratorの基本操作
9	Illustratorの基本図形の描画とパスの作成
10	Illustratorによるオブジェクトの編集
11	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成
12	Illustratorによるロゴの作成
13	Illustratorによるシンボルマークの作成
14	Illustratorの応用機能とPhotoshopとの連携
15	制作作品プレゼンテーション1
16	制作作品プレゼンテーション2

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する予定である（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

ウェブプログラミング

担当教員 平良 直之、小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネットの普及にともない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、ブログ、インターネットショッピングといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関連する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	PHPの開発環境
2	PHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）
3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）
4	演習：PHPの基礎
5	関数の利用①（文字列・配列の操作）
6	関数の利用②（ファイルの操作、メール送信）
7	演習：関数の利用
8	ウェブプログラミングの基礎①（テキスト・ボタンの利用）
9	ウェブプログラミングの基礎②（認証、セッション、外部コマンド）
10	演習：ウェブプログラミングの基礎
11	PHPによるデータベースの利用①（データベースの基本操作）
12	PHPによるデータベースの利用②（データベース接続とデータの検索）
13	PHPによるデータベースの利用③（データの挿入・更新・削除）
14	演習：PHPによるデータベースの利用
15	総合課題演習
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

【参考文献】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

エグゼクティブ・セミナー

担当教員 -上地 哲

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

激動の時代、ニューノーマル（変わる常態）の時代。何が起こるか、予測のつかない社会の常態という意味です。経済的にはデフレの時代です。もはや景気の良い時代は予測できません。2011年3月11日の東日本大震災は、大きな犠牲の結果、日本人の意識を大きく変えました。「人は何のために働くのか」、「何のために生きるのか」、国や社会が新しいライフスタイルを提示できない混迷の時代。社会的存在である一人ひとりが、それぞれの生きている時代と無関係ではられません。人はどう生きればいいのか、生きかたの哲学を、国内外で活躍する企業家、ジャーナリスト、デザイナーなど様々な世界で活躍する方々の生き方から学んでいきたい。

【授業の展開計画】

- 1 週目 講義概要（ガイダンス）社会の変遷 高度情報化社会の誕生
- 2 週目 新たなる社会の動きー3.11東日本大震災後の意識の変化
- 3 週目 沖縄経済の現況 未成熟な産業と自立できない構造
- 4 週目 観光産業の現場
- 5 週目 建築業界の動向
- 6 週目 情報産業の位置づけと方向性
- 7 週目 食品産業の場合
- 8 週目 福祉業界の状況
- 9 週目 ジャーナリズムに求められるもの
- 10 週目 健康食品産業の動向
- 11 週目 文化産業とは
- 12 週目 商品開発とマーケティング
- 13 週目 ブランディング戦略
- 14 週目 ニューノーマル時代をどう生きるか
- 15 週目 沖縄の自立は可能か 期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻・早退・欠席は届けでること

【評価方法】

成績評価は出席状況、課題提出、講義中の学習態度、期末試験結果を総合的に判断して行う。

【テキスト】

できるだけパワーポイント等で説明するのでノートをとってください。テキスト・資料については必要に応じて配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

応用マクロ経済学 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一国または一地域の経済全体の動向を対象に集計量として、経済の変数間の関係を理論的、実証的に明らかにするのがマクロ経済学です。

マクロ経済学のスキルを使い、沖縄経済、日本経済、アジア経済の動向を解明し、我々の周りで起こっている経済現象をわかりやすく説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済とは
2	マクロ経済学への誘い
3	経済の循環
4	ストックとフロー
5	消費と投資
6	消費関数
7	投資関数
8	所得の決定 所得は何によって生まれるか
9	乗数効果
10	IS曲線、LM曲線、
11	お金とは
12	信用創造
13	中央銀行の役割
14	インフレとデフレ
15	資産市場とマクロ経済
16	金融政策

【履修上の注意事項】

1から優しく教えますが、積み木のような構造になっているので、途中理由無く休まないこと。

【評価方法】

テストとりポーにより評価します。

【テキスト】

一つのテキストを使うわけではないので値適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

応用マクロ経済学Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

応用マクロ経済学1を基に、できるだけ、沖縄経済、日本経済、アジア経済等の解説をしていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	財政政策
2	貿易と経済
3	失業と経済
4	経済成長
5	産業連関分析(1)
6	産業連関分析(2)
7	産業連関分析(3)
8	沖縄経済のマクロ分析(1)
9	沖縄経済のマクロ分析(2)
10	沖縄経済のマクロ分析(3)
11	日本経済マクロ分析(1)
12	日本経済のマクロ分析(2)
13	日本経済のマクロ分析(3)
14	アジア経済のマクロ分析(1)
15	アジア経済のマクロ分析(2)
16	試験

【履修上の注意事項】

応用マクロ経済学1を履修していることが望ましい。理由無く休まないこと。

【評価方法】

テストとレポートにより評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

応用ミクロ経済学 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究する。ミクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて究明する。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第一回 家計の経済活動：選好と効用
- 第二回 無差別曲線の性質①
- 第三回 無差別曲線の性質②
- 第四回 予算の制約
- 第五回 需要量の決定①
- 第六回 需要量の決定②
- 第七回 所得変化・価格変化の効果
- 第八回 企業の生産活動、生産関数①
- 第九回 生産関数②
- 第十回 費用曲線①
- 第十一回 費用曲線②
- 第十二回 産出量の決定①
- 第十三回 産出量の決定②
- 第十四回 供給変化の効果
- 第十五回 期末試験

【履修上の注意事項】

第一回目の講義の際に履修上の注意を連絡します。テキストは履修上の注意を聞いてから購入して下さい。

【評価方法】

出席、レポート提出、期末試験を基に総合的に評価します。

【テキスト】

伊藤元重『ミクロ経済学』、日本評論社

【参考文献】

①N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2000年

応用ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

応用ミクロ経済学Ⅰで学習した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習を深める。まず、完全競争市場における資源配分の効率性についてふれ、次に独占市場や寡占市場、独善的競争市場について学ぶ。さらに、市場がうまく機能しない市場の失敗について学び、不完全な情報の下では経済行動に問題が生じ、資源配分がうまくいかないことについて学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 応用ミクロ経済学Ⅱ概要説明
- 第2回 完全競争市場と資源配分①
- 第3回 完全競争市場と資源配分②
- 第4回 独占市場について①
- 第5回 独占市場について②
- 第6回 寡占市場について①
- 第7回 寡占市場について②
- 第8回 中間試験
- 第9回 独占的競争市場①
- 第10回 独占的競争市場②
- 第11回 市場の失敗①
- 第12回 市場の失敗②
- 第13回 不完全情報①
- 第14回 不完全情報②
- 第15回 期末試験

【履修上の注意事項】

応用ミクロ経済学Ⅰを履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題、中間テスト、期末テストの状況を総合して評価します。

【テキスト】

第一回目の講義の時間に説明します。テキストは説明を聞いてから購入してください。

【参考文献】

- ①「ミクロ経済学」伊藤元重、日本評論社
- ②「ミクロ経済学」嶋村紘輝、成文堂

オペレーションズリサーチ

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

オペレーションズ・リサーチ (OR) とは最適戦略に関連する手法の総称であり、第二次世界大戦中のイギリスで様々な分野の科学者が招集され、軍の配備や防空システムといった軍事目的の研究に着手したことが発端だと言われている。また、複雑化・多様化した現代社会において、最良の方針を模索するための合理的・科学的アプローチは企業や政府、自治体にとって必須となっており、ORの考え方は効果的な情報処理という意味でも重要な位置づけにある。

【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。また、受講生の理解度を深めるため、適宜、PC教室での演習も行う。

週	授 業 の 内 容
1	ORとは
2	線形計画法(i)
3	線形計画法(ii)
4	線形計画法(iii)
5	線形計画法(iv)
6	日程計画とPERT(i)
7	日程計画とPERT(ii)
8	日程計画とPERT(iii)
9	在庫管理(i)
10	在庫管理(ii)
11	在庫管理(iii)
12	待ち行列理論(i)
13	待ち行列理論(ii)
14	待ち行列理論(iii)
15	待ち行列理論(iv)
16	

【履修上の注意事項】

- ①本講義は、意思決定論、知的情報処理などに関連する科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、講義を登録させないこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

- (1) 福田・児玉・中道 著「OR入門」, 多賀出版
- (2) 大村平 著「ORのはなし」, 日科技連
- (3) 森・松井 著「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店

外書講読 I

担当教員 原田 真知子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、データ解析や情報処理関連領域の外国文献・資料講読の積み重ねにより、大学での学習や卒業後の生活で英文文献・資料を利用できる能力を身につけることを目的に、外書講読I、IIで計30回の授業項目を編成します。

外書講読Iでは、英文読解の基礎となる力を段階的に伸ばし、英文を読む楽しさを感じることができるようになるレベルを目指します。

【授業の展開計画】

良質の英文エッセイの多読と関連するドキュメンタリー番組の反復視聴を通して、英文書講読の基礎となる総合的な英語運用能力を養練します。一人ひとりの英語運用能力の診断結果に基づき、段階的に英文読解の多様なストラテジー (Reading Strategy) や語彙力が身につくように進度を調整し講義を進めます。また、辞書の活用方法や語義の推測方法を、事例を取り上げながらわかりやすく説明します。

- 1回目 授業計画の説明、辞書の選び方、現時点での英文運用能力の実力測定
- 2回目 「データ・情報分析に関する海外ドキュメンタリー番組」の紹介と反復視聴、シナリオの英文構造分析
- 3回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 (前半25分)
2) 英文読解のストラテジーの練習① (後半60分)
- 4回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習②
- 5回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習③
- 6回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習④
- 7回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑤
- 8回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑥
- 9回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑦
- 10回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑧
- 11回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ①
- 12回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ②
- 13回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ③
- 14回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ④
- 15回目 全授業のポイントを復習、今後の学習指針
- 16回目 テスト： 総合的英語運用能力養練による到達力の診断

【履修上の注意事項】

1) 単に授業に出席するだけでなく、授業で使用した教材 (プリント、ドキュメンタリー番組のシナリオなど) を反復学習することによって、総合的な英語運用能力が上達します。必ず事前学習 (通読し、未知の単語を辞書でひく) と事後学習 (精読し、段落ごとに要約や試訳する) を行ってください。

2) 学習相談は授業終了直後とします。また、machiko@okiu.ac.jp にて常時、質問・相談を受け付けますので、気軽にメールしてください。

【評価方法】

出席と授業態度 (30%)、ワークシートの提出状況 (40%)、テストの相対評価 (30%) を勘案し成績を判定します。授業回数の3分の1以上欠席したものは不可としますので、注意してください。

【テキスト】

履修生の英語運用能力と共通の英文資料に合わせてプリントを作成し配布しますので、特に教科書を購入する必要はありません。プリントは「英文の読解ストラテジー」などの内容。 **必ず辞書を準備してください。

【参考文献】

Sofka, L. J. et al. "Click, Click, Double Click: Computer Basics," Asahi Press. Ushiro, Y. et al. "Reader's Ark: 20 Treasures of Effective Reading Techniques," Kinseido. その他は適宜紹介

外書講読Ⅱ

担当教員 原田 真知子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、データ解析や情報処理関連領域の外国文献・資料講読の積み重ねにより、大学での学習や卒業後の生活で英文文献・資料を利用できる能力を身につけることを目的に、外書講読I、IIで計30回の授業を編成します。外書講読IIでは、Iの基礎的読解能力の養練に続き、共通の資料を講読しながら具体的な翻訳の仕方や内容理解の方法を楽しく学びます。1英語を専門課程を学ぶツールのみならず、グローバル化時代を生きていく上で必要な知識を得るためのツールとしての「英語への向き合い方」、2具体的な翻訳法、内容理解の方法を修得することを到達目標とします。

【授業の展開計画】

海外高級雑誌に連載された比較的難易度の高い英文論説の多読と海外ドキュメンタリー映画の反復視聴を通して、英文講読能力を養練します。また、共通の英文記事や論説を題材に、その解釈法や論旨に対する意見を議論することで、一人ひとりの語彙力と読解力を高めます。解釈法の解説の際は講師の翻訳経験で培った「翻訳と速読の具体的なテクニック」を紹介し、興味深く学べるように授業内容を工夫します。

- 1 授業計画の説明、辞書の選び方、現時点での英文運用能力の実力測定
- 2 「データ・情報分析に関する海外ドキュメンタリー映画」の解説、導入部の視聴と英文構造分析
- 3 1) 海外ドキュメンタリー映画の視聴とシナリオの英文構造分析（前半25分）
2) 英文記事・論説①の英文構造分析と解説（後半60分）
- 4 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説①の解釈法のディスカッション
- 5 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説②の英文構造分析と解説
- 6 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説②の解釈法のディスカッション
- 7 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説③の英文構造分析と解説
- 8 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説③の解釈法のディスカッション
- 9 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説④の英文構造分析と解説
- 10 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説④の解釈法のディスカッション
- 11 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑤の英文構造分析と解説
- 12 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑤の解釈法のディスカッション
- 13 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑥の英文構造分析と解説
- 14 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑥の解釈法のディスカッション
- 15 全授業のポイントを復習、これからの英語への向き合い方
- 16 テスト： 英文運用能力養練による到達力の診断

【履修上の注意事項】

- 1) 単に授業に出席するだけでなく、授業で使用した教材（プリント、ドキュメンタリー映画のシナリオなど）を反復学習することによって、総合的な英語運用能力が上達します。必ず事前学習（辞書をひき試訳または要約する）と事後学習（正式に翻訳し提出する、またはワークシートへの記入と見直し）を行ってください。
- 2) 学習相談は授業終了直後とします。また、machiko@okiu.ac.jp にて常時、質問・相談を受け付けますので、気軽にメールしてください。

【評価方法】

授業への参加姿勢とワークシートの提出状況（60%）、テストの相対評価（40%）を勘案し成績を判定します。授業回数数の3分の1以上欠席したものは不可としますので、注意してください。

【テキスト】

履修生の英語運用能力と共通の英文記事・論説資料に合わせてプリントを作成し配布しますので、特に教科書を購入する必要はありません。プリントは「読解から翻訳へのステップアップ」などの内容。*辞書持参のこと*

【参考文献】

Anderson, C. "The Internet: A Survey of Internet from the Economist", The Economist. Weld, P. "Views on the News: Media Literacy in the 21st Century" Kinseido. 他に、BusinessWeekなどの英文雑誌

企業情報論 I

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用の高度化はとどまることを知らない。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われる。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩の過程と各フェイズにおける企業サイドからの情報システムへの期待の変容などをロジカルに考察しながらより定性的な理解を目指していく。

【授業の展開計画】

- 1 週目 情報の特質と価値
- 2 週目 情報技術の進化
- 3 週目 通信ネットワーク技術の進化
- 4 週目 セキュリティシステムと暗号化技術
- 5 週目 インターネットと企業
- 6 週目 ケーススタディー (1) : 情報化の歴史
- 7 週目 情報の産業化：情報産業の発展
- 8 週目 企業の情報化：企業における情報技術の活用
- 9 週目 情報技術と競争優位の戦略①
- 10週目 情報技術と競争優位の戦略②
- 11週目 知的財産権と競争優位
- 12週目 ケーススタディー (2) : 特許権と競争優位
- 13週目 ケーススタディー (3) : 著作権と競争優位
- 14週目 デファクト・スタンダードと競争優位
- 15週目 ケーススタディー (4) : デファクト・スタンダード
- 16週目 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 成績は、期末試験、レポート、出席日数により総合的に評価する。
- (2) レポート作成の際には、インターネット等を利用した情報収集を要するため、基本的な情報検索技術が必須となる。
- (3) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（4回以上）、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

【テキスト】

資料については毎回配布する。

【参考文献】

- ・松岡正剛：『情報の歴史』NTT出版 ・山田英夫：『デファクト・スタンダードの経営戦略』中公新書

企業情報論Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目し、様々なビジネスモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また近年注目されているCGM(Consumer Generated Media)などの革新的なサービスなどについても言及し、それらを有効活用する新たなビジネスモデルの構築事例について適宜紹介していく。

【授業の展開計画】

- 1週目 経営情報システムの進化
- 2週目 情報システムマネジメントの原理①
- 3週目 情報システムマネジメントの原理②
- 4週目 情報システムのマネジメントモデル
- 5週目 ITマネジメントとアウトソーシング
- 6週目 通信ネットワークを活用したアウトソーシング
- 7週目 ケーススタディ(1)：アウトソーシング
- 8週目 中小企業の情報システム
- 9週目 ECの現状
- 10週目 ケーススタディ(2)：EC向けASP
- 11週目 ECにおける法的課題
- 12週目 ビジネスモデル特許
- 13週目 遠隔地域における情報技術の戦略的活用
- 14週目 ロジスティックシステムとSCM
- 15週目 ケーススタディ(3)：物流の情報化
- 16週目 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) レポート作成の際には、インターネット等を利用した情報収集を要するため、基本的な情報検索技術が必須となる。
- (2) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（4回以上）、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

【テキスト】

テキストおよび資料については毎回配布する。

【参考文献】

- ・ゴードン B. デービス：『マネージング・インフォメーション』 ・ハーバート・ビジネス・レビュー編：『ITマネジメント』

企業と産業財産権

担当教員 有賀 俊二

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業で知的財産権担当として実践できる実務的な講座

- 1) 知的財産権の魅力
- 2) 商標・特許の調査（特許庁のHP）
- 3) 商標出願の実際（特許庁に出願）
特許庁のホームページを活用した実践的講義とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的財産権制度の全体概要と企業経営における役割
3	企業の知的財産権活用事例研究
4	商標制度の概要と商標権の役割
5	特許制度の概要：特許公報の読み方
6	意匠制度の概要と意匠権の役割
7	実用新案制度の概要と特許法と相違
8	著作権、不正競争防止法と知的財産権
9	知財経営
10	商標情報検索実習（1）
11	商標情報検索実習（2）
12	商標出願書類の作成演習
13	特許情報検索実習
14	簡単な特許出願書類の作成演習
15	商標・特許のトラブル事例
16	試験

【履修上の注意事項】

講義では、特許庁のホームページを実際に活用しながら進める。

【評価方法】

講義の中で実際に特許庁に出願するレベルの商標登録の書類作成をする。
オリジナルの商標を考え、調査し、書類を作成するところまでは最低ラインとする。
これに課題レポートなどを考慮して評価する。

【テキスト】

特許庁のHPの参照の他、適時、提供する。

【参考文献】

なし

基礎演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを遂行する実行力などを含めた総合的な能力としての問題解決能力が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解し、より単純な要素の組み合わせとして表現し、さらに各要素が互いにどのように関係するのか、どのような条件でどの要素を用いるのかなどといった問題解決の手順を記述したものである。

本演習では、このような理解のもとに、プログラミングによる問題解決能力の養成を目指す。

【授業の展開計画】

本演習では、プログラミングを通じた問題解決能力の養成を主眼としていることから、プログラミング環境としてアイコンベースのビジュアルプログラミング言語である「Scratch（スクラッチ）」を用いる。

各課題においては、ワークシート上にてアイディアのラフスケッチを描き、それをPAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）にて図示した後にプログラムを行う手順を取る。

- 1：ガイダンス(スクラッチとは)
- 2：プログラムとアルゴリズム
- 3：PAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）
- 4：スクラッチの基本操作(1) スプライトの動き
- 5：スクラッチの基本操作(2) 制御命令
- 6：スクラッチの基本操作(3) サウンド制御
- 7：スクラッチの基本操作(4) 見た目の制御
- 8：スクラッチの基本操作(5) 条件分岐
- 9：シューティングゲームの作成(1)
- 10：シューティングゲームの作成(2)
- 11：シューティングゲームの作成(3)
- 12：個人製作によるゲームの企画・開発(1)
- 13：個人製作によるゲームの企画・開発(2)
- 14：個人製作によるゲームの企画・開発(3)
- 15：最終発表会(1)
- 16：最終発表会(2)

【履修上の注意事項】

演習科目であるため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。また私語や欠席の多い学生については、講義途中であっても不可を通達する場合がある。学籍番号毎にクラスが割り当てられるので登録にあたって注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習 I（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可となる（基本、皆出席を求める）。評価は、受講態度、試験、レポート、成果物などにより総合的に判断する。

【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム

【参考文献】

藤吉弘亘 他「実践ロボットプログラミング ―LEGO Mindstorms NXTで目指せロボコン!」近代科学社

基礎演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案することができる創造力、そしてそれを遂行できる実行力などを含めた総合的な能力（問題解決能力）が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まる。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような条件でどの要素を使うのかなど問題解決の方法自体を記述したものがプログラムとなる。

本演習ではプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。

【授業の展開計画】

本演習では、論理的な思考能力の養成、レポート作成の基本的な技能の修得、視覚的なプレゼンテーション技術の修得を目指す。講義前半では「Scratch（スクラッチ）」を用いて、プログラム設計で必要となる要件整理や処理手続きの検討などを学習する。講義後半では個別課題を与え、課題に取り組むだけでなく発表会も開催する。

週	授 業 の 内 容
1	システム開発とプログラミング
2	要件整理と処理手順(i)
3	要件整理と処理手順(ii)
4	Scratchの基本操作(i)
5	Scratchの基本操作(ii)
6	制御命令(i)
7	制御命令(ii)
8	制御命令(iii)
9	シューティングゲームの作成(i)
10	シューティングゲームの作成(ii)
11	個別課題：ゲームの企画と製作(i)
12	個別課題：ゲームの企画と製作(ii)
13	個別課題：ゲームの企画と製作(iii)
14	発表会(i)
15	発表会(ii)
16	総括

【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。

学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。

【評価方法】

評価は出席状況、レポート、授業態度等を総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

基礎演習 I

担当教員 又吉 光邦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、コンピュータの基本的な処理について学び、簡単な計算や反復計算、条件分岐のプログラム作成を通して、プログラミングについて理解を深めてもらうことを目的とする。

【授業の展開計画】

人の行う情報処理は、(1) 順次処理、(2) 反復処理、(3) 分岐処理の3つで構成されている。コンピュータのシステム(プログラム)もこれら3つの処理の組合せで成り立っている。本講義ではこれらについて、スクラッチおよびプログラミング言語Javaを用いて実際に簡単なプログラムの作成で学習する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	スクラッチの基本操作(1) スプライトの動き
3	スクラッチの基本操作(2) 制御命令
4	スクラッチの基本操作(3) サウンド制御
5	スクラッチの基本操作(4) 見た目の制御
6	スクラッチの基本操作(5) 条件分岐
7	シューティングゲームの作成(1)
8	シューティングゲームの作成(2)
9	シューティングゲームの作成(3)
10	Javaでの開発手順
11	画面に文字を表示するプログラムを記述する。
12	プログラムの作成 I (順次処理)
13	プログラムの作成 II (if文: 分岐処理)
14	プログラムの作成 III (for文: 反復処理)
15	課題。
16	課題提出

【履修上の注意事項】

出席および毎回の講義での授業態度は、評価対象として大きなウェートを占めます。

【評価方法】

出席率、授業態度、課題、試験。

【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム、電子掲示板に掲示するプリント(各自印刷)。

【参考文献】

やさしいJava、ソフトバンク、高橋麻奈

基礎演習 I

担当教員 小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案することができる創造力、そしてそれを遂行できる実行力などを含めた総合的な能力（問題解決能力）が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まる。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような条件でどの要素を使うのかなど問題解決の方法自体を記述したものがプログラムとなる。

本演習ではプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。

【授業の展開計画】

本演習では、プログラミングを通じた問題解決能力の養成を主眼としていることから、プログラミング環境としてはアイコンベースのビジュアルプログラミング言語である「Scratch（スクラッチ）」を用いる。各課題においては、ワークシート上にてアイデアのラフスケッチを描き、それをPAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）にて図示した後にプログラムを行う手順を取る。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	プログラムとアルゴリズム
3	PAD (Problem Analysis Diagram：問題分析図)
4	スクラッチの基本操作（1）スプライトの動き
5	スクラッチの基本操作（2）制御命令
6	スクラッチの基本操作（3）サウンド制御
7	スクラッチの基本操作（4）見た目の制御
8	スクラッチの基本操作（5）条件分岐
9	シューティングゲームの作成（1）
10	シューティングゲームの作成（2）
11	シューティングゲームの作成（3）
12	個人製作によるゲームの企画・開発（1）
13	個人製作によるゲームの企画・開発（2）
14	最終発表会（1）
15	最終発表会（2）
16	

【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。

学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。”

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。評価は受講態度、成果物により総合的におこなう。

【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム

【参考文献】

藤吉弘亘 他「実践ロボットプログラミング ―LEGO Mindstorms NXTで目指せロボコン!」近代科学社

基礎演習Ⅱ

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

これからの大学生生活において、レポートとして課題提出することが多くなる。そして、レポートを作成することについては、種々のデータや情報を取り扱うことになる。あるデータは、見方を変えることにより、様々な情報を作成することが可能となる。本講義では、産業情報の観点から、データに触れ、収集、処理、解析するために、これらの基礎となる方法等について習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

間違えること、できないことを恐れずに、チャレンジすることを目標にすること。分からないこと、できないことをそのままにすることは、役に立たないばかりか、その後の学生生活において無意味なものになるため、注意すること。

【第1回】

ガイダンス

【第2回～15回】

講義内容の理解度により、進捗を調整する。主として、Microsoft Excelを用いてデータに触れ、収集、処理、解析の一連について行う

- 内容：
- ①データの見方
 - ②データの収集方法
 - ③データの処理方法
 - ④データの解析方法
 - ⑤レポートの書き方

第2回～15回の間、2回課題の提出を求める。

【履修上の注意事項】

- ・演習形式で講義を進めるため、原則として遅刻は厳禁
- ・30分以上遅刻した場合、入室を認めない
- ・提出課題を2回とも提出しない場合は、単位を認めない
- ・1/3以上欠席の場合は、単位を認めない
- ・各講義の最後に、確認課題を課する

【評価方法】

確認課題30点（2点×15回）、提出課題70点（35点×2回）の合計100点満点において、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で判定する。

【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトすること）

【参考文献】

特に定めなし。適宜示します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学における講義はレポート・論文の作成やプレゼンテーション（発表）など自分の意見や主張を述べ、文章に表すなど高校までの授業や勉強方法とは異なる方法で課題や試験を回答・提出しなければならない。そこでこの講義では、情報の収集、レポートの作成方法や発表についての技術・方法について紹介し、実際に練習・演習を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、情報リテラシーとは
2	文章の作成①
3	文章の作成②
4	情報・文献の収集①
5	情報・文献の収集②
6	情報の加工と整理、分析①
7	情報の加工と整理、分析②
8	情報の加工と整理、分析③
9	レポート・論文の作成①
10	レポート・論文の作成②
11	プレゼンテーションの方法①
12	プレゼンテーションの方法②
13	プレゼンテーションの方法③
14	各個人による発表
15	各個人による発表
16	各個人による発表

【履修上の注意事項】

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。
発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用しない。講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

『情報の達人第1巻図書館へ行こう！』紀伊國屋書店 2007年
『情報の達人第2巻ゼミ発表をしよう！』紀伊國屋書店 2007年
『情報の達人第3巻レポート・論文を書こう！』紀伊國屋書店 2007年

基礎演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習の目的は、産業情報学科における今後の学習に活かすため情報の収集・分析、レポート・論文作成、プレゼンテーションの基本を身につけることです。この演習では、まず身近な経済統計情報を基に情報の収集、整理、統計データの基本的な分析について学びます。次に報告レポートの作成、プレゼンテーションについて学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	基礎演習Ⅱの基本事項
2	インターネットを通じた情報収集①
3	インターネットを通じた情報収集②
4	統計データの分析①（増加率、構成比）
5	統計データの分析②（増加率、構成比）
6	統計データの分析③（寄与率、寄与度）
7	統計データの分析④（寄与率、寄与度）
8	統計データの分析⑤（変動係数）
9	統計データの分析⑥（記述統計）
10	統計データの分析⑦（記述統計）
11	レポート作成の基本①
12	レポート作成の基本②
13	プレゼンテーションの基本①
14	レポート報告とディスカッション①
15	レポート報告とディスカッション②
16	基礎演習Ⅱの総括

【履修上の注意事項】

第一回の演習の時間に注意事項を説明します。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、レポートの報告をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは特にしていません。演習の際に参考文献などを紹介します。

【参考文献】

- ①『大学生のためのレポート論文術』、小笠原喜康、講談社
- ②『経済論文の作法』、小浜裕久・木村福成、日本評論社

基礎演習Ⅱ

担当教員 池宮城尚也

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅱの目的は、経済情報分野における基礎学力を身に着けることである。具体的には、社会や経済に関する資料・統計を利用して表計算・統計ソフト(Microsoft Excel等)の操作実習を行い、分析結果を解釈する方法を学んでいく。これらの学習を行いながら、文章読解能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力を養成する。受講生が、2年次以降の経済情報分野における履修内容をイメージできるような授業の展開を目指す。

【授業の展開計画】

- (1) 統計分析・経済学の基礎：経済情報分野の学習について
- (2) 経済情報分野の資料・統計の利用方法と理解
- (3) 表計算・統計ソフトの操作方法
- (4) 分析結果の解釈
- (5) 文章読解能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力の養成

なお、具体的な授業の展開計画・内容は、担当者により若干異なるため、第1回講義の際に通知する。

【履修上の注意事項】

- (1) 学籍番号によるクラス割り当てを厳守すること。
- (2) 演習科目のため、原則として皆出席を要求する。
- (3) 私語や欠席が多い受講生は、講義期間中に不可を通知する必要がある。
- (4) 基礎演習Ⅱの単位を取得しない場合、専門演習基礎(必修科目)の登録をはじめとする2年次以降の履修に支障をきたす場合があるので、注意すること。

【評価方法】

出席状況、レポート、講義態度等により、総合的に評価する。

【テキスト】

第1回講義の際に通知する。

【参考文献】

第1回講義の際に通知する。

基礎数学

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ（情報）を作り出すことを情報処理という。本講義ではまず高校数学の復習を行い、次に微分積分や確率など、情報処理に必要な基本的な知識を学ぶ。また、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を行い、練習問題をなるべく多くこなすことで受講生が数学的センスを身につけられるよう配慮する。

【授業の展開計画】

本講義では、以下の授業計画を基に講義を展開し、経済学および情報科学に必要な基礎的な数学知識を学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	式と計算(i)
2	式と計算(ii)
3	関数(i)
4	関数(ii)
5	関数(iii)
6	平面図形と式(i)
7	平面図形と式(ii)
8	方程式と不等式(i)
9	方程式と不等式(ii)
10	方程式と不等式(iii)
11	順列と組合せ(i)
12	順列と組合せ(ii)
13	確率(i)
14	確率(ii)
15	確率(iii)
16	

【履修上の注意事項】

- ①本講義は、情報数学、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果，出席状況，レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

(1) 石村園子 著「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」，共立出版 (2) 情報処理教育研究会 編「情報数学の基礎」，日本理工出版会 (3) 小堆光喜 著「情報処理数学 60DAYS」，実教出版

基礎数学

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎数学の目的は、高校数学 I・Aと産業情報学科で利用する数学への橋渡しである。2年次以降の専門科目を受講するための基礎学力を養成したいと考えている。数学を苦手とする学生が多いが、苦手意識にとらわれず、数学への取り組み方を見なおすことから始めてほしい。計算プロセスを丁寧に記述することや、後々で復習に利用できるノートづくりなど、工夫を加えることで成果が望めるはずである。また、週1回90分の講義であるから、高校までとは進行ペースに違いが出ることに注意してほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済情報と数学：イントロダクション
2	式と計算①
3	式と計算②
4	直線と1次関数
5	まとめと問題練習 1
6	2次関数と最大・最小①
7	2次関数と最大・最小②
8	2次関数と最大・最小③
9	2次不等式
10	指数と対数、いろいろな関数
11	まとめと問題練習 2
12	個数の処理と確率①
13	個数の処理と確率②
14	個数の処理と確率③
15	まとめと問題練習 3
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

ワークシート・練習問題のプリントを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

木村哲三・浦田健二『経済学を学ぶための基礎数学 第2版』同文館出版，2010年。

【参考文献】

水野勝之『入門編 テキスト経済数学』中央経済社，2000年。

金融情報論 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融情報論 I では、「金融システム」および「金融の理論的側面」を講義する。講義の目的は、「産業の情報化」と「金融」の関わりを理解するための、基礎知識を身につけることである。イメージしやすい、身近な金融行動を例にするところから解説をはじめ、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。授業の展開計画にあるように、講義では様々な「金融」の説明が出てくる。受講生には、目の前の「金融」の説明が、「身近なたとえに置き換えると何なのか」イメージする習慣を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	金融市場の基礎知識①
3	金融市場の基礎知識②
4	金融の理論的側面 1 : 金融市場①
5	金融の理論的側面 1 : 金融市場②
6	家計の金融活動
7	企業の金融活動
8	金融の理論的側面 2 : 企業行動①
9	金融の理論的側面 2 : 企業行動②
10	わが国の銀行
11	わが国の金融サービス業
12	金融の理論的側面 3 : 金融仲介①
13	金融の理論的側面 3 : 金融仲介②
14	銀行規制政策
15	わが国の金融政策
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 滝川好夫『金融論の楽々問題演習』税務経理協会, 2007年。
 [2] 藤原賢哉・家森信善編著『金融論入門』, 2002年。

金融情報論Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融情報論Ⅱでは「資金決済システム」および「電子マネー・電子商取引」を中心に講義する。金融部門は情報化と相互に作用しあって発展してきた産業である。従って、金融論の視点から「産業の情報化」について理解することが講義の目的になる。学習内容を身近にイメージする工夫を通じて、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。そのため、授業の展開計画にあるような諸内容と、受講生がイメージする「金融」の距離感を縮めるような解説を、常に心がけたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	資金決済システム①
3	資金決済システム②
4	決済リスク
5	資金決済システムの比較
6	資金決済システムの現在
7	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動①
8	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動②
9	電子マネー・電子商取引①
10	電子マネー・電子商取引②
11	金融の理論的側面2:電子マネー・電子商取引と金融①
12	金融の理論的側面2:電子マネー・電子商取引と金融②
13	金融システムと情報技術革新
14	情報技術革新の進展と金融経済①
15	情報技術革新の進展と金融経済②
16	期末試験

【履修上の注意事項】

金融論の基礎知識を前提に講義を進めるので、金融情報論Ⅰを受講しておくことが望ましい。

【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 館龍一郎監修, 日本銀行金融研究所編『電子マネー・電子商取引と金融政策』東京大学出版会, 2002年。
 [2] 中島真志・宿輪純一『決済システムのすべて(第2版)』東洋経済新報社, 2005年。

経営情報システム論

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムによる効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを解説する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論し、また、意思決定システムやシミュレーション技術、ネットワーク技術、データベース技術などの工学的な要素も取り入れて概観していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス ー情報システムとはー
2	経営情報システム
3	経営戦略と情報システム
4	意思決定支援システム
5	eビジネスモデル
6	マーケティングとデータマイニング
7	ウェブマーケティング1
8	ウェブマーケティング2
9	前半まとめと中間試験
10	ウェブテクノロジーとビジネスモデル1
11	ウェブテクノロジーとビジネスモデル2
12	ウェブテクノロジーとデータベース技術
13	ユビキタスコンピューティング
14	クラウドコンピューティング
15	後半まとめおよび最終試験
16	試験解答および総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。

【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。4年次以上の受講生は注意すること。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

【参考文献】

講義時に紹介する。

経済学概論 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学は、希少な資源（土地、資本、労働力など）を用いてモノやサービスを生産し、人間の福利を高め、経済社会の発展に結びつけるかを探求する学問です。私たちの抱える経済問題は、基本的には市場を通じて解決されますが、市場はすべてのことを解決できるほど万能ではありません。今日、経済の国際化、情報化、環境に関連する課題が浮かび上がってきています。講義では、経済学の基本的な考え方を学び、現実の課題に対して経済学からどのように捉えるのかについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について
2	需要と供給
3	需要供給分析の応用
4	需要曲線とは
5	需要曲線と消費者余剰
6	費用の構造と供給行動
7	供給曲線とは
8	費用の構造と供給行動
9	利潤最大化と供給行動
10	中間テスト
11	市場取引と資源配分
12	市場と価格メカニズム
13	資源配分のゆがみ
14	市場における競争と経済発展①
15	市場における競争と経済発展②
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明し

【評価方法】

成績評価は、出席状況、課題の提出状況、中間試験、期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

伊藤元重著「入門経済学第3版」日本評論社

【参考文献】

- ①「入門経済学」N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社
- ②「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ著、藪下史郎他訳、東洋経済

経済学概論 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学概論 I では、大学1年次を想定した入門レベルの経済学を講義する。講義の目的は、経済情報を読み解くために必要な、経済学の基礎知識を身につけることである。そのために、①経済現象の「経済」が身の周りの何なのか、②経済学の内容は経済現象の「読み解き方」を提供している、の2点を各々の受講生が明確にイメージできるようにする必要がある。講義の進行にあたり、受講生が、難しいグラフや数式の理解にエネルギーを使い果たし、肝心の現実の経済現象に無関心にならないよう、注意したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について：イントロダクション
2	ミクロ経済学の基礎①
3	ミクロ経済学の基礎②
4	需要曲線と消費者行動①
5	需要曲線と消費者行動②
6	供給曲線と企業行動①
7	供給曲線と企業行動②
8	学習内容の復習 1
9	マクロ経済学の基礎①
10	マクロ経済学の基礎②
11	有効需要と乗数メカニズム①
12	有効需要と乗数メカニズム②
13	マクロ経済政策①
14	マクロ経済政策②
15	学習内容の復習 2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

ワークシートを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

伊藤元重『入門 経済学 第3版』日本評論社，2010年

【参考文献】

- [1]N・G・マンキュー著，足立英之他訳『マンキュー経済学(第2版) I ミクロ編』東洋経済新報社，2005年。
 [2]N・G・マンキュー著，足立英之他訳『マンキュー経済学(第2版) II マクロ編』東洋経済新報社，2005年。

経済学概論Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学概論Ⅱの内容は、大学1年次を想定した入門レベルの経済学の、後半部分である。具体的には、巨大企業による生産の支配、環境破壊、失業、経済成長などが学習対象である。講義の目的は、経済学の基礎知識を身につけながら、現実の経済の動きに興味を持つきっかけをつくることである。そのために、各回の学習内容が「世の中のどの部分」の考察なのか、常に念頭に置く習慣を身に付けてもらいたい。講義の進行にあたり、受講生が、現実経済への関心を忘れ、難しいグラフや数式の理解にエネルギーを使い果たさないように、注意したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について：イントロダクション
2	独占と競争の理論①
3	独占と競争の理論②
4	市場の失敗①
5	市場の失敗②
6	消費者の理論①
7	消費者の理論②
8	学習内容の復習 1
9	貨幣の機能①
10	貨幣の機能②
11	インフレと失業①
12	インフレと失業②
13	経済成長と経済発展①
14	経済成長と経済発展②
15	学習内容の復習 2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

ワークシートを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

伊藤元重『入門 経済学 第3版』日本評論社，2010年

【参考文献】

- [1]N・G・マンキュー著，足立英之他訳『マンキュー経済学(第2版) I ミクロ編』東洋経済新報社，2005年。
 [2]N・G・マンキュー著，足立英之他訳『マンキュー経済学(第2版) II マクロ編』東洋経済新報社，2005年。

経済学概論Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学概論Ⅰでは、需要と供給、市場における資源配分といったミクロ経済学についてとりあげました。経済学Ⅱでは、経済を全体的にとらえるマクロ経済学を中心に学習します。まず、マクロ経済学とは何かを概略説明したあと、国民総生産（GDP）、有効需要と乗数、貨幣の機能について学習します。国の経済力の水準がどのように決定されるのか、またGDPの構成要素である消費や投資がどうなっているのか、失業や物価（インフレやデフレ）はどうなっているのかというように身近な経済の状況を学習していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	マクロ経済学とは
2	GDPについて
3	マクロ経済における需要と供給①
4	マクロ経済における需要と供給②
5	有効需要と乗数メカニズム①
6	有効需要と乗数メカニズム②
7	需要の決定とマクロ経済の均衡
8	中間テスト
9	貨幣の機能①
10	貨幣の機能②
11	マネーサプライと信用乗数
12	貨幣供給と物価
13	財政政策について
14	金融政策について
15	インフレと失業
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

第1回目の講義の際に注意事項を説明します。

【評価方法】

出席状況、課題の提出状況、中間試験、期末試験を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

伊藤元重著「入門経済学第3版」、日本評論社

【参考文献】

- ①「入門経済学」、N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社
- ②「入門経済学」、ジョゼフ・E・スティグリッツ、東洋経済新報社

経済数学

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済数学の目的は、2年次以降の専門科目で利用する数学の基礎を身につけることである。専門科目で学習する経済情報の分析ツールを使いこなすには、本講義レベルの数学的理解は不可欠である。基礎数学に比べて高度な学習内容になるが、講義中、主体的に計算を試みる態度を持ち続ければ、必ずしも難解にはならない。新しい学習内容は、あくまで計算全体の一部にすぎない。基本計算を丁寧に実行するところが大部分であり、正解への近道であることに気づいてもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済情報と数学：イントロダクション
2	微分の基本計算
3	微分の公式と計算①
4	微分の公式と計算②
5	1変数関数の極大・極小
6	偏微分と全微分①
7	偏微分と全微分②
8	偏微分と全微分③
9	まとめと問題練習 1
10	線形代数の基礎①
11	線形代数の基礎②
12	行列式と固有値①
13	行列式と固有値②
14	行列式と固有値③
15	まとめと問題練習 2
16	期末試験

【履修上の注意事項】

ワークシート・練習問題のプリントを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・山下隆之『はじめよう 経済数学』日本評論社，2003年。
 [2] 三土修平『初歩からの経済数学(第2版)』日本評論社，2001年。

国際経済学

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。

【授業の展開計画】

本講義では国際経済学の基礎知識を理論的に講義する。

週	授 業 の 内 容
1	国際経済学とは何か
2	国際経済の動き
3	国際貿易の基礎理論（1） 自由貿易の利益
4	国際貿易の基礎理論（2） リカード・モデル
5	国際貿易の基礎理論（3） ヘクシャー＝オーリン・モデル
6	新しい国際貿易の理論
7	中間まとめ
8	貿易政策
9	貿易と経済発展
10	生産要素の国際移動
11	国民所得と国際収支
12	為替レート
13	アジアの経済発展
14	中国の経済発展
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、石井安憲ほか『入門・マクロ経済学』有斐閣、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルヴァ書房、など。

産業情報特別講義Ⅱ（経営と情報）

担当教員 一星野 聖（世話役：小渡 悟）

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目では、以下の事項の修得を目指す。(1) 基本的な医学・生理学的知識、脳科学、心理学・認知科学に関する知識の習得。(2) 生体工学、バーチャルリアリティ、ロボティクスに関する基本的な工学技術の習得である。講義では、センサ技術と生体现象の計測法、時系列や点系列信号の解析法、確率過程論や時系列解析論を使った生体モデル構築法、最適制御など制御理論の観点から捉えたヒト運動系の解析方法、信号処理や画像処理などを用いた生体信号解析手法、センサ・電子回路の設計技法、医用モニタリング、福祉工学、感覚補助代行等への応用、バーチャルリアリティ、ロボティクスなどについて講述する。

【授業の展開計画】

- 1回：ロボティクス（機械工学）から見た動物行動の理解
- 2回：ゲーム理論から見た生物行動、意志決定の論理
- 3回：脳・神経・シナプス、感覚器の生理学
- 4回：視覚情報処理
- 5回：色覚、色盲、錯視、視覚の可塑性と発達
- 6回：聴覚の生理学、心理音響
- 7回：音声認識・音声合成、聴覚補助代行
- 8回：バーチャルリアリティ、心理学、認知科学
- 9回：体性感覚の情報処理
- 10回：脳における運動制御、計算論的神経科学
- 11回：義手義足、幻肢、機能的電気刺激
- 12回：生体計測のための電子回路技術、生体物性
- 13回：生体信号解析、点過程解析、確率過程論、決定論的カオス
- 14回：ロボティクス
- 15回：期末試験

【履修上の注意事項】

受講のための必須条件はないが、数学的な基礎知識、コンピュータプログラミング、電子回路などの基礎知識を持っていると、授業内容が理解しやすい。
欠席・遅刻のないことを希望する。

【評価方法】

レポート課題の提出状況ならびに期末試験の成績。

【テキスト】**【参考文献】**

授業中に適宜、指示する。

産業情報分析 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネットなどから産業・経済データを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	推移・比較分析
3	順位・比較分析
4	内訳・順位分析
5	関係分析
6	比較・関係分析
7	階層分析
8	集中度・格差分析
9	原因の影響度分析
10	売上傾向分析
11	伸び率分析
12	データの集計分析
13	CS分析
14	データの基本的統計分析（その1）
15	データの基本的統計分析（その2）
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

山崎紅『説得できるデータ図解の鉄則 Excelビジュアル活用編』日経BP社、住中光夫『Excelでマスターするビジネスデータ分析 実践の極意』ASCII、上田太郎『新版Excelでできるデータマイニング入門』同友館、等。

産業情報分析Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からの産業データの収集、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で進める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	産業情報データの特性を分析する（1）
3	産業情報データの特性を分析する（2）
4	産業情報データの特性を分析する（3）
5	ものごとの関係を分析する（1）
6	ものごとの関係を分析する（2）
7	ものごとの関係を分析する（3）
8	単一要因の効果の大きさを評価する
9	複数の要因変数の効果を同時に測る（1）
10	複数の要因変数の効果を同時に測る（2）
11	どちらのグループになるかを判別予測する
12	普及率などを予測する
13	定性的データを数量的に分析する（1）
14	定性的データを数量的に分析する（2）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

渡辺美智子ほか「実践ワークショップ Excel徹底活用 統計データ分析」秀和システム、淵上美喜ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 ビジネスデータ分析』秀和システム、上田太郎ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 多変量解析』秀和システム、等。

産業情報論

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、産業分野で情報通信技術や情報システム等がどのように活用され、産業構造や産業の仕組みにどのように影響を及ぼしているか、また、産業分野の情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造と技術動向、人材ニーズ、情報化の進展に伴い新たに重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う現状や動向等について概観し、理解させる。

【授業の展開計画】

- 1 週目 産業情報論で何を学ぶのか
- 2 週目 情報化の進展と社会の関わり
- 3 週目 情報化の進展と産業社会の構造変化
- 4 週目 卸・小売・物流業界の情報化（POSシステム、EOS、SCM等）
- 5 週目 金融・サービス業界の情報化（CRM、IR/PR等）
- 6 週目 建設業界の情報化（CAL S）
- 7 週目 製造業界の情報化（CAD/CAM、SCM、BTO、CPFR等）
- 8 週目 IT化と産業構造・企業経営の変革動向
- 9 週目 IT化と市場・消費者行動の変革動向（EC市場、BtoC、CtoC等）
- 10週目 情報産業の発展と社会（1）情報産業の構造と市場
- 11週目 情報産業の発展と社会（2）情報産業の技術と人材ニーズ
- 12週目 情報化と新たなビジネスモデル（特許、知的所有権等）
- 13週目 情報化基盤と新技術の動向（モバイル化、WEB化、セキュリティ・認証等）
- 14週目 情報化基盤と周辺環境の動向（情報モラル、プライバシー保護、セキュリティ管理等）
- 15週目 期末試験

【履修上の注意事項】

黒板への板書はできるだけせず、PCスライドやOHPを用いて講義を進める。重要な内容は各自メモすること。また、情報化の進展は秒進分歩。常に新聞記事に目を通し、情報関連の最新情報を収集すること。

【評価方法】

評価は出席、学期末試験、課題提出等を勘案して行う。

【テキスト】

砂川徹夫『産業情報論』、日本情報処理開発協会編『情報化白書』、新聞記事 等

【参考文献】

産業創造論

担当教員 城間 勇雄

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では沖縄の産業創造を沖縄のおかれた地理的特性、歴史的な経緯等をふまえて、復帰後の沖縄振興開発計画及び沖縄振興計画、そして新しい振興計画の基礎として策定された21世紀ビジョンを論じる。その上で沖縄経済の成長のエンジンと目されている観光、情報・通信産業、泡盛、健康関連産業、特別自由貿易地域、物流関連に進む。特に専門性の高い分野では外部から現職の担当者に講義をサポートしてもらい具体的な講義内容にする。また、途中2回の振り返り・学生同士の討論を挟み全体として「考える」ことを重視した講義内容にする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 講義の目的 全体計画 講義概要 -歴史の視点から見る沖縄の産業-
2	第2週 経済の流れと沖縄の産業 -沖縄の立ち位置は-
3	第3週 沖縄振興開発計画(第1次~第3次)と沖縄振興計画(2002年~2011年)
4	第4週 沖縄21世紀ビジョンと新しい振興計画 -2012年度から始まる新しい振興計画-
5	第5週 振り返り討論Ⅰ ◎第1回課題提示
6	第6週 沖縄の基幹産業① -観光を切り口とした産業の創造-
7	第7週 沖縄の基幹産業② -情報産業の現状と未来展望-
8	第8週 オキナワ型産業の戦略的展開 -健康食品・バイオ・健康関連サービス・泡盛etc-
9	第9週 産学官共同研究事業と沖縄TLO
10	第10週 振り返り討論Ⅱ ◎第2回課題提示
11	第11週 道州制と沖縄経済
12	第12週 沖縄における国際航空物流 -アジアのハブ空港をめざして-
13	第13週 沖縄の雇用と労働 ◎最終総括課題提示
14	第14週 産業創造論まとめ
15	第15週 予備日
16	講義の進み具合によってカリキュラムを一部変更する場合があります。

【履修上の注意事項】

初回の講義で最終総括日に提出する総括レポートの課題を提示する。第2週目以降途中で2回の振り返り討論を挟み、この間に講義した内容について学生同士で議論し総括する。その際これまでに終えた講義に関するレポートの課題を提示する。それを翌週の講義開始前に提出のこと。その際、レポートと一緒にこれまでに終えた講義に対する感想、意見、要望を合わせて提出すること。

【評価方法】

試験は行わない。

- ・受講態度 4割 (講義出席 6割未満は不可)
- ・途中2回の提示レポートの成績 3割
- ・最終総括レポートの成績 3割

【テキスト】

【参考文献】

産業ネットワーク論

担当教員 當銘 栄一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ネットワークングにより経済主体は、時間、空間を克服し、遠隔地の他者との交流、調整が出来る。ネットワークの効率という情報化社会のメリットを駆使すれば資本、経営の規模を問わないビジネスが展開できる。ネットワークは大きな組織に組み込まれることなく、数の力が得られ、お互いに違うもの同士を引き合わせ、それぞれがお互いの知識や技術を補完することで一人ずつでは出来ないことを可能にする。産業発展におけるネットワークの役割について理論と事例をもとに楽しい講義したい。

【授業の展開計画】

- 1週目 ネットワークの概念規定
- 2週目 ネットワークの効率
- 3週目 経済発展とネットワーク
- 4週目 市場と組織、中間組織
- 5週目 ネットワークと取引コスト
- 6週目 ネットワークの形成理由と類型
- 7週目 ネットワークとイノベーション
- 8週目 分業ネットワークと企業発展
- 9週目 台湾の企業成長とネットワーク
- 10週目 台湾中小企業の分業システム ー外包制度と企業成長ー
- 11週目 台湾の企業適応とネットワーク
- 12週目 日本の下請け制度とネットワーク
- 13週目 日本企業の企業成長とネットワーク
- 14週目 沖縄経済とネットワーク ー島嶼経済におけるネットワークの意義ー
- 15週目 ネットワークを土台にした産業 ー沖縄の情報金融特区の事例ー

【履修上の注意事項】

講義は用語や手法、理論を積み上げていく、積み木のような構成になっているので休まないこと。

【評価方法】

期末テストを中心に評価するが、適宜小テストやレポートを課して総合的に評価する。

【テキスト】

一つのテキストを講義する手法はとらず、適宜参考資料を提供しつつ、講義する。

【参考文献】

(1) 南部鶴彦他「ネットワーク産業の展望」日本評論社、(2) 辻正次他「ネットワーク未来」日本評論社、(3) 安田雪「ネットワーク分析」ワードマップ、(4) 富川盛武「台湾の企業成長とネットワーク」白桃書房

産業連関論

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場する言葉であるが、これらの計算には産業連関表を用いられている。産業連関表を用いた分析である産業連関分析は、経済波及効果に限らずさまざまな分析に用いられる有用な手法である。

この講義では、産業連関表や産業連関分析の一部について解説し、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、実際統計データを用いて応用、分析を行えることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	産業連関分析の基本①：産業連関表について、基本取引表
3	産業連関分析の基本②：投入係数表、自給率など
4	行列①：行列、逆行列の概念
5	行列②：表計算ソフトによる計算
6	産業連関分析の基本③：逆行列係数表
7	産業連関分析の基本④：付帯表
8	産業連関分析の応用①：経済波及効果
9	直接効果の計算①：具体事例
10	直接効果の計算②：社会調査、アンケート調査など
11	産業連関分析の応用②：表計算ソフトによる計算
12	産業連関分析の応用③：経済波及効果の計算
13	産業連関分析の応用④：価格波及分析
14	演習①：経済波及効果
15	演習②：価格波及分析
16	総括

【履修上の注意事項】

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

授業態度・課題・レポートの3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

【テキスト】

安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年

【参考文献】

藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらくIO入門』日本評論社2005年

土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年

情報化と法

担当教員 有賀 俊二

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

インターネットに代表されるコンピュータ・ネットワークの急速な発達、今日の経済社会の情報化を益々加速させ、大きな変化をもたらしている。このような急速な情報化に伴う経済社会の変化に対して法的な対応の問題や情報モラルの問題が鮮明となってきている。本講義では、情報化と法についての理解を深めるために、情報化の進展に伴い注目されている知的財産権やプライバシー保護など様々な法的問題とモラルの問題について取り上げ、これらインターネット社会の問題への対応及びモラルのあり方について検討していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	情報化と法との関わり
3	情報化と知的財産権（1）
4	情報化と知的財産権（2）
5	コンピュータ・プログラムの法的保護
6	表示の法的保護
7	営業秘密の法的保護
8	企業情報開示の問題
9	情報公開制度
10	個人情報保護
11	電子商取引に関する問題
12	製造物責任と情報提供
13	情報モラルとサイバー犯罪
14	情報化と法的問題の事例 1
15	情報化と法的問題の事例 2
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 講義では、基本的な法令について説明するので、インターネット上などで関連法令条文を確認すること。
- (2) 他の法律関連科目を履修することが望ましい。

【評価方法】

成績表は、課題レポートを重視し、期末試験、出席に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、テキストを準備する。

【参考文献】

情報処理概論

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術の基礎的な内容を幅広く取り扱う。主な項目としては、まず、情報処理の概念とコンピュータの発展の過程について学び、次に、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの構造と動作原理を理解する。さらに、ネットワークシステムと通信技術のデータベースシステムにおけるデータの基本構造とファイル編成法等を通して利用形態から見たコンピュータシステム全般に関する理解を深める。また、情報処理システムが社会に与えた功罪を整理しながら、セキュリティシステムや暗号化技術についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1週目 情報処理の概念とコンピュータ
- 2週目 コンピュータの歴史
- 3週目 コンピュータの基本表現：単位、文字コード、N進数、アナログとデジタル
- 4週目 コンピュータの原理：論理回路
- 5週目 ハードウェア(1)：CPUのしくみと役割
- 6週目 ハードウェア(2)：記憶装置と記憶メディア
- 7週目 ハードウェア(3)：入出力装置と入出力インターフェイス
- 8週目 ソフトウェア(1)：オペレーティングシステム
- 9週目 ソフトウェア(2)：ビジネスアプリケーション、フリーウェア
- 10週目 コンピュータの利用形態：集中処理、分散処理等
- 11週目 ネットワークシステムと通信技術
- 12週目 データベースシステム(1)：データ構造とファイル編成法
- 13週目 データベースシステム(2)：リレーショナルデータベースとSQL
- 14週目 アルゴリズムの基本とシステム開発の手順
- 15週目 セキュリティシステムと暗号化技術
- 16週目 期末試験

【履修上の注意事項】

レポート作成等においてインターネットによる情報検索技術を要するため、基本的な情報処理技術の修得が必須となる。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート(4回以上)、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

【テキスト】

テキストおよび資料については毎回配布する。

【参考文献】

金谷信之：『三訂版 情報処理論』晃洋書房・ライオン K. スティーブンス他：『SQLプログラミング入門』ソフトバンク・安藤明文：『情報処理入門 三訂版(情報処理テキストシリーズ)』実教出版

情報処理システム演習

担当教員 又吉 光邦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、情報処理システム開発の最先端である、携帯端末のソフト開発を通してシステム開発を具体的に学んでいくことを狙いとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開発環境 I (JDK, Eclipse)
2	開発環境 II (新規プロジェクトの作成・実行)
3	レイアウト作成方法
4	ボタン等の部品の配置 I
5	ボタン等の部品の配置 II (微調整の仕方)
6	イベント処理プログラム I (消費税の計算)
7	イベント処理プログラム II (為替の計算)
8	ファイル入出力処理 I (テキストエディタと内容保存)
9	ファイル入出力処理 II (テキストエディタと内容保存)
10	位置情報サービスの取得 I (フィンガープリントとGoogleAPIsの利用、GoogleMapの表示)
11	位置情報サービスの取得 II (フィンガープリントとGoogleAPIsの利用、GoogleMapの表示)
12	ビデオ再生方法 I
13	ビデオ再生方法 II
14	ギャラリー利用方法 I
15	ギャラリー利用方法 II
16	まとめ

【履修上の注意事項】

JavaによるAndroid用のシステム開発です。

【評価方法】

授業態度、開発したシステムの提出。

【テキスト】

AndroidのSDKのバージョン・アップデートが激しいため、プリント(各自、電子掲示板よりダウンロード)で行います。また、それに伴い、講義内容に若干の変更のある場合があります。

【参考文献】

Android関連書籍。関連Webページ。

情報処理システム論

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

身近なコンピュータシステムを例に挙げながら、コンピュータシステムの定義からシステム開発工程までを解説する。また、開発の現場で必須となりつつあるUMLとJavaを用いた開発を通して実際の開発過程を理解することを目指す。

【授業の展開計画】

前半ではシステム開発の手順を解説し、後半は「小規模な店舗における販売・在庫管理システム」の設計・開発の実現例を解説する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・コンピュータシステムとは
2	コンピュータシステムとは
3	システムの開発工程
4	システム開発の実際（上流工程）
5	システム開発の実際（上流工程）
6	システム開発の実際（下流工程）
7	システム開発の実際（下流工程）
8	要件定義の記述
9	要件定義の記述
10	システムの内部構造と機能の定義
11	システムの内部構造と機能の定義
12	プログラムの設計
13	プログラムの設計
14	プログラムの実装と試験
15	プログラムの実装と試験
16	総合演習・期末試験

【履修上の注意事項】

プログラミング演習、プログラミングⅠ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

【テキスト】

松永 俊雄 他「コンピュータシステム開発入門」オーム社（2008）

【参考文献】

Scott W. Ambler 他「オブジェクト開発の神髄」日経BP出版センター（2005）
 オージス総研オブジェクトの広場編集部「その場でつかえるしっかり学べるUML 2.0」秀和システム（2006）
 桐越 信一他「UMLモデリング教科書 UMLモデリングL2 第2版」翔泳社（2008）

情報数学

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、情報数学 I に引き続き情報処理に必要な基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、 n 進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。なお、講義の方針は、情報数学 I と同様に、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を主に行い、練習問題をなるべく多くこなすことで数学的センスが身に付けられるよう配慮する。

【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	集合と論理 (i)
2	集合と論理 (ii)
3	集合と論理 (iii)
4	n 進数 (i)
5	n 進数 (ii)
6	n 進数 (iii)
7	n 進数 (iv)
8	ベクトル (i)
9	ベクトル (ii)
10	ベクトル (iii)
11	行列 (i)
12	行列 (ii)
13	行列の応用 (i)
14	行列の応用 (ii)
15	行列の応用 (iii)
16	

【履修上の注意事項】

①本講義は、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科

目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。

②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

情報通信ネットワーク論

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 0

【授業のねらい】

インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・情報ネットワークの歴史
2	情報ネットワークのプロトコル
3	データリンク層プロトコル
4	ネットワーク層プロトコル
5	トランスポート層プロトコル
6	アプリケーション層プロトコル
7	トラヒック理論の基礎
8	ネットワーク層プロトコルの実際
9	コンテンツ配信
10	アクセス系ネットワーク
11	IP電話
12	セキュリティ
13	エンタープライズネットワーク
14	NGN (次世代ネットワーク)
15	総まとめ
16	総合演習・期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

【テキスト】

池田博昌, 山本幹「情報ネットワーク工学」(2008)

【参考文献】

山内雪路「よくわかる情報通信ネットワーク」東京電機大学出版局(2010)
三上信男「現場の基本を集中マスター ネットワーク超入門講座」ソフトバンク(2010)

情報と職業

担当教員 岡田 良

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄県は観光やIT産業を中心に自立的経済発展を目指している。とりわけここ10年で様変わりした同業界（特にIT産業）の変遷と地域におけるその発展要因を学ぶとともに、現在および近い将来の業界トレンドを理解する。□ また、これらの職種に関する理解を深め以て各人の卒業前就職活動もしくは卒業後の就労に際し、高いモチベーションをもつことを目的としている。よって本講義では学術的理論習得を目指すのではなく、より現実的・具体的な職種の現状を正しく理解することをねらいとしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	本講義の目的と概要をガイダンス。
2	講義スケジュール説明後、県内産業の動向について簡単に解説します。
3	さまざまな産業の動向やその職種について理解を深めます。また企業活動そのものを理解します。
4	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解します（その1）。
5	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解します（その2）。
6	沖縄県および自治体の政策を学びながら、IT業界の変遷と業界の動向について講義します。
7	過去10年を振り返りながら、近い将来におけるIT業界の動向を模索します。
8	講師自身の職務（IM）や実践に触れながら地域振興の必要性和理解を深めます。
9	企業成長→事業創成⇒産業創造への発展要因を解説する。
10	国・地方行政またはその職員が産業振興に果たす役割を解説する。
11	これからの大学の在り方と学生に求められるものについて論じる。
12	企業では内定者を決めるまでにどのような過程を経ているのかを知る。
13	就職活動中または活動前の学生に高いモチベーションをもつための講義を実施する（その1）。
14	就職活動中または活動前の学生に高いモチベーションをもつための講義を実施する（その2）。
15	講義のまとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

とくに就職活動前の学生の受講を希望します。就職活動中の学生についても自身の目指す職業像を正しく理解したいものの受講は歓迎いたします。

【評価方法】

出席状況および学期末試験の結果を総合的に判断し評価します。なお、学期末試験時にはノート、書籍等参考になるもの持ち込みは可とします。また、やむ負えない事情で試験当日欠席した者についてはメールによるきめられた期限内での提出を認めることとします。

【テキスト】

【参考文献】

情報マネジメント演習

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報化先進企業の情報管理・活用事例等を通して、情報化の目的、運用管理体制、導入し活用されている情報システム、経営者意識や情報化人材の育成、情報セキュリティ等多角的視点での情報管理の評価分析視点を理解させる。そして、その理解を踏まえて、2～4人のグループ単位で「県内組織体（企業等）の情報管理実態・意向調査」の課題を与え、分析報告と発表等を行うことでより情報管理に対する理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1 週目 情報特性と情報管理
- 2 週目 情報化レベルの把握
- 3 週目 情報システムの構築の基本ステップ
- 4 週目 適用業務別システムの概要と特徴
- 5 週目 情報化先進企業の事例研究 1
- 6 週目 情報化先進企業の事例研究 2
- 7 週目 情報化先進企業の事例研究 3
- 8 週目 情報化先進企業の事例研究 4
- 9 週目 情報化先進企業の事例研究 5
- 10 週目 各グループ調査企業の事例発表 1
- 11 週目 各グループ調査企業の事例発表 2
- 12 週目 各グループ調査企業の事例発表 3
- 13 週目 各グループ調査企業の事例発表 4
- 14 週目 各グループ調査企業の事例発表 5
- 15 週目 期末試験

【履修上の注意事項】

前期開講の「情報マネジメント論」受講者を優先する。また、受講者全員に、2～4人のグループ単位で「企業における情報管理実態・意向調査」に関する課題を与え、レポート提出、パワーポイントを利用した発表を行う。

【評価方法】

評価は出席、課題提出、発表、学期末試験等を勘案して行う。

【テキスト】

砂川徹夫『情報マネジメント論講義テキスト』

【参考文献】

プリント配布や必要に応じて参考文献等を紹介する。

情報マネジメント論

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、第4の経営資源としての”情報”の特質や企業経営等における情報の役割を明らかにし、情報を効果的・効率的に運用管理する方式としての情報管理の概念や意義、情報管理システムの構成要素である情報処理システム、情報源（データベース）、情報化人材、運営システム等について体系的に理解させる。

特に、情報ネットワークやマルチメディア環境の進展を踏まえて、インターネット活用と情報モラル、デジタルコンテンツと知的財産権、個人情報の保護、情報セキュリティ等の最新動向について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1 週目 情報技術の進展と情報管理の現状
- 2 週目 情報管理の情報概念と特性
- 3 週目 情報価値とナレッジマネジメント
- 4 週目 情報行動と意思決定
- 5 週目 情報管理の基本プロセスとマネジメントの概念
- 6 週目 情報の収集と生成のマネジメント
- 7 週目 情報の蓄積・分析のマネジメント
- 8 週目 情報コミュニケーションのマネジメント
- 9 週目 情報マネジメントと情報システム
- 10 週目 情報マネジメントと人材
- 11 週目 情報マネジメントと組織
- 12 週目 情報共有と情報モラル、プライバシー保護
- 13 週目 デジタルコンテンツと知的財産権
- 14 週目 情報ネットワークとセキュリティ管理
- 15 週目 情報マネジメント分野の最新動向

【履修上の注意事項】

情報処理概論や産業情報論、産業情報分析等を受講していることが望ましい

【評価方法】

評価は出席、学期末試験、課題提出等を勘案して行う。

【テキスト】

砂川徹夫『情報マネジメント論講義テキスト』

【参考文献】

講義の理解度を考慮して授業中に参考文献を提示するかコピーを配布する。

情報リテラシー演習

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築（HTML・CSS）およびフラッシュを用いたアニメーション技術を学ぶ。まず最初にテキストエディタで、HTMLのタグを入力して基本的なウェブサイトの作成を行う。さらにスタイルシートを利用したデザイン手法、画像や音声など各種フォーマットの特性を学び、最後にアニメーション作成ソフトウェア（Flash）を用いて簡単なアニメーションの制作を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・登録調整
2	HTMLの基本・テキストエディタの使用法
3	文字のデザイン・カラーコード
4	リンク
5	背景と罫線
6	画像レイアウト・グラフィックソフトの使用法
7	横幅と配置のアレンジ
8	テーブル
9	フォーム
10	Flashの基本
11	Flashのサンプル例
12	FlashによるデザインFlashを用いたオープニングアニメーション
13	応用例と上級テクニック
14	課題レポートプレゼン1
15	課題レポートプレゼン2
16	総括

【履修上の注意事項】

共通科目の情報処理基礎を受講済みの学生もしくはそれと同等の技術（ワープロ・表計算ソフトの基礎知識）がある者のみを登録する。これらの技術がない場合には情報処理基礎を履修してから受講すること。内容については毎回の講義の積み重ねになるため、遅刻・欠席は認めない。初回の講義に欠席する者は登録を取り消す（欠席する場合には事前に連絡するように）。

【評価方法】

評価は出席状況（30点）と2回の課題レポートもしくは試験（200点）の合計点数より決定する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

講義時に紹介する。

情報リテラシー演習

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築するための技術について、実際にプログラミングを行いながら習得する。まず、基礎的なWebサイトの構築方法であるHTMLについて学ぶ。次に、デザインを構成するためのCSS (Cascading Style Sheets) について学ぶ。そして、アニメーションを作成するためのFlashについて学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	テキストエディタの使用方法, HTML言語の基本
3	文字のデザイン, カラーコード
4	リンクの設定
5	背景と罫線の設定
6	グラフィックソフトの使用方法, 画像レイアウト
7	ページ設定, 配置
8	テーブル作成
9	フォーム作成
10	Flashの基本
11	Flashによるアニメーション
12	応用テクニック
13	課題発表①
14	課題発表②
15	課題発表③
16	課題提出

【履修上の注意事項】

- ・ 共通科目の「情報処理基礎」の単位取得者を本講義の登録対象者とする
- ・ 第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・ 演習講義のため、原則として遅刻は厳禁。また、30分以上遅刻した場合は、入室を禁止する
- ・ 1/3以上欠席した場合は課題発表の資格を認めず、課題未発表の場合は単位を認めない
- ・ 毎講義の最後に確認問題を課する

【評価方法】

確認問題30点 (2点×15回) , 課題発表70点の合計100点満点において
80点以上「優」, 70~79点「良」, 60~69点「可」, 60点未満「不可」で判定する。

【テキスト】

プリントを配付する (講義前にプリントアウトする)

【参考文献】

- ・ HTML/XHTML&スタイルシートレッスンブック (ソシム社出版, エビスコム著)
- ・ インターネット上のWebページ作成ヒント集

政策過程の数量分析論

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地方分権の推進によって地方自治体の権限や役割が強化される中、地方自治体の財政状況は厳しい状況が続いている。このような状況で地方独自の政策判断や政策決定を行うためには、費用対効果を明確にし、統計やデータを用いた分析が必要不可欠となってきた。本講義では政策に必要な統計や分析手法について具体的事例を用いながら解説を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	公的統計の体系
3	公的統計の見方
4	国と地方の財政①
5	国と地方の財政②
6	政策評価①
7	政策評価②
8	費用便益分析①
9	費用便益分析②
10	仮想市場法 (CVM) ①
11	仮想市場法 (CVM) ②
12	産業連関分析①
13	産業連関分析②
14	産業連関分析③
15	総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

受講態度、課題、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない、レジュメを配布する。

【参考文献】

松井博『公的統計の体系と見方』日本評論社2008年
伊多波良雄『公共政策のための政策評価手法』中央経済社2009年
講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

専門演習基礎

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割をはたしたほうが望ましいのかを研究することである。沖縄県は、地域経済と自治体の財政の関係が深い。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習する。次に、沖縄の振興と財政の役割について検討していく。

【授業の展開計画】

- 第1回 専門演習基礎のオリエンテーション
- 第2回 日本経済の概要①
- 第3回 日本経済の概要②
- 第4回 日本経済の概要③
- 第5回 沖縄県経済の概要①
- 第6回 沖縄県経済の概要②
- 第7回 沖縄県経済の概要③
- 第8回 地域振興と財政①
- 第9回 地域振興と財政②
- 第10回 地域振興と財政③
- 第11回 沖縄振興計画①
- 第12回 沖縄振興計画②
- 第13回 沖縄振興計画③
- 第14回 専門演習基礎の総括①
- 第15回 専門演習基礎の総括②

【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項をお知らせします。

【評価方法】

演習への出席状況、課題の提出状況、演習における取組み、ディスカッションにおける参加の姿勢等、総合的に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

専門演習基礎

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

開講当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を義務付ける。また専門演習Ⅰは専門演習Ⅱの基盤となる演習科目であることから、こうした情報処理に関する基本的な知識の上に、システム構築を念頭においた学習が必要となる。よって、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発に必須となるロジカルな思考法、豊かな発想力、バグを追求する忍耐力などの精神面の養成も大切な目的となる。

【授業の展開計画】

- 1週目 ガイダンス
- 2週目 コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術）
- 3週目 コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用）
- 4週目 マルチメディア①（基礎的な技術）
- 5週目 マルチメディア②（企業システムへの応用）
- 6週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識①
- 7週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識②
- 8週目 データベース・システム①（基礎的な技術）
- 9週目 データベース・システム②（企業システムにおけるデータベースの役割）
- 10週目 データベース・システムの設計
- 11週目 データベース・プログラミング①
- 12週目 データベース・プログラミング②
- 13週目 システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識
- 14週目 企業内ネットワーク・システムの知識
- 15週目 企業内情報システムの問題解決技法
- 16週目 データの集計と統計処理技法

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「情報処理概論」、「プログラミング理論」の履修を条件とする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート（5回以上）、各種情報関連資格の取得状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

栢木 厚『栢木先生の初級シスアド教室—イメージ&クラブ—方式でよくわかる』技術評論社・栢木 厚『1週間で分かる初級シスアド集中ゼミ』日本経済新聞社・河合 昭男他『明解UML—オブジェクト指向&モデリング入門』秀和システム

【参考文献】

トニー ブザン『人生に奇跡を起こすノート術—マインド・マップ放射思考』きこ書房・茂木 秀昭『ロジカル・シンキング入門』日経文庫、日本経済新聞社

専門演習基礎

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、金融経済論の学習および研究を行うことが目的である。専門演習基礎では、計量経済分析・経済理論モデルといった、金融経済論の研究に必要な分析方法の学習に着手する。具体的にはMicrosoft Excelを利用した経済分析の学習をさす。ゼミ生には、Excelの使いやすさに早めに気づき、分析方法の理解や計算結果の解釈に努めてもらいたい。そのために、教科書実習に止まらず、様々なデータを利用した応用学習も行う。なお、金融情報論Ⅰ・Ⅱを必ず受講し、金融経済論の基礎知識を身につけておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) 計量経済分析の基礎
- (2) Excelを利用した経済理論の学習
- (3) 分析のためのデータ収集
- (4) 計量経済分析と出力結果の解釈
- (5) 計量経済分析の分析方法の理解

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものよりも、計算結果を理解するための学習が多い。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス(新版)』有斐閣、2006年。

専門演習基礎

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、卒業研究に向けた導入部分と位置づける。

そのために、まず目的に沿ったデータの見方およびとらえ方について学ぶ。次に、データの処理方法および情報の作成方法について学ぶ。最後に、データおよび情報の見せ方について、プレゼンテーションの方法、レジュメやレポートの作成方法について学ぶ。

これらを通して、研究に対する楽しみや姿勢を学び、将来的に学会等において発表できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

- ・ゼミ形式で実施するため、全員参加のこと
- ・間違えること、できないことを恐れず、チャレンジすることに重点をおくこと
- ・産業情報の観点から、あらゆる角度からの視点をもつこと

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	データの見方
3	データのとらえ方
4	データの処理方法①
5	データの処理方法②
6	情報の作成方法①
7	情報の作成方法②
8	結果と考察
9	データ、情報の表現方法①
10	データ、情報の表現方法②
11	プレゼンテーション作成方法
12	プレゼンテーション発表方法
13	課題発表①
14	課題発表②
15	課題発表③
16	課題提出

【履修上の注意事項】

- ・ゼミ形式のため、原則として遅刻は厳禁
- ・1/3以上の欠席の場合は、単位を認めない
- ・各講義の最後に、確認課題を課する

【評価方法】

確認課題30点（2点×15回）、課題発表30点、提出課題40点の合計100点満点において、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で判定する。

【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトすること）

【参考文献】

特に定めない。適宜示します。

専門演習基礎

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

今日、ITの発展に伴い、いわゆる「情報の産業化」が進み、新たなビジネスや産業が創出されている。同時に既存産業におけるITの活用により、いわゆる「産業の情報化」が進み、既存産業の効率化や発展が図られている。本演習では、インターネットや表計算ソフトなどを活用しながら、経済・産業に関するデータや情報の収集方法および分析方法を学習し、情報の収集力、問題の発見力・分析力を高めることを目標とする。

【授業の展開計画】

インターネットを活用した産業・経済データや情報の収集方法を学習しながら、Excelなどの統計ソフトを用いて産業・経済データや情報のビジュアル的分析手法および基礎的統計分析手法を学習する。また、後半には3年次の専門演習Ⅰに向けて、個別研究分野を設定するための文献調査・学習も併せて行う。

なお、詳細なスケジュールについては初回講義時に紹介する。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

初回講義時に紹介する。また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習基礎

担当教員 又吉 光邦

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、1年次までの情報処理の基礎の上に、さらに専門的なことを自ら探究心を持って目標を設定し、それを研究・実現していくことにある。テーマによっては、学会の支部大会や全国大会での発表をめざす。学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律的に研究を遂行する積極的な態度と研究成果を要求する。また、起業プロジェクトや沖縄の産業についての研究も積極的な卒業研究と位置付けている。

【授業の展開計画】

情報処理の基礎的な学習を終え、自ら学会発表を行えるテーマやソフト開発などを行うが、それらに必要な研究・調査手法などを実践を通して学習する能力を身につける。

専門演習の課題は、大きく3つに分かれる。1つめはプログラミング言語Javaを中心としたシステム開発/Android用のソフト開発。2つめは、遺伝的アルゴリズム/組合せ最適化理論/暗号関連研究。3つめは、起業や沖縄の産業に貢献する琉球を素材としたアプローチによる研究。

学生の自らが設定したテーマごとにシステムの開発・研究や調査研究を行い、その進捗状況に応じてセミナー形式で行う。

専門演習では、企業の方々との話し合いの場を設け、実務的な立場、社会人から見た意見を聞くこともある。

【履修上の注意事項】

礼儀・言葉づかい。

【評価方法】

セミナー出席と各自の専門演習の進捗（発表含む）

【テキスト】

電子情報通信学会学論文、電気学会論文、人工知能学会論文、情報処理学会論文、全国大会論文集、国際会議論文集。Java関連書籍、Android関連書籍、暗号関連書籍。

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。海外のProceedingsなど。EclipseやJava/Androidについて書かれた本。シリコンバレーに関する図書。沖縄県内の図書館。暗号に関する本。

専門演習基礎

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。

【授業の展開計画】

専門演習基礎では、システム設計、プログラミング、情報処理に関する基本的なスキルの習得を目指す。そのため、テキストの解説だけでなく受講者に多くの演習課題を課す。また、課題成果の報告（設計内容、コーディング内容）を義務づけ、資料作成・説明力といったプレゼンテーションに必要な技術も学ぶ。

【履修上の注意事項】

- ①プログラミングⅡ、ウェブプログラミングおよびオペレーションズ・リサーチは本演習の関連講義であるため、これらの科目の単位を取得した学生を優先する。
- ②本演習では、受講生に大して事前に課題を与え、その報告をふまえた上で講義をすすめていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、その事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

出席状況 4割、課題提出 3割、成果報告 3割とする。但し、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とする。

【テキスト】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

【参考文献】

(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク (2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ

専門演習基礎

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

現代社会は、情報技術の進歩や社会の急速な変化により情報が大量に氾濫している高度情報社会と呼ばれている。このような社会で生活するためには、情報やデータを主体的に読み取り取捨選択し正しい判断するリテラシー能力が必要不可欠である。

この講義では情報リテラシーおよび統計データを用いた分析など情報分析に関する基本的な能力を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	データの読み方①
3	データの読み方②
4	メディアリテラシー①
5	メディアリテラシー②
6	表・グラフの加工①
7	表・グラフの加工②
8	文献調査・発表およびディスカッション①
9	文献調査・発表およびディスカッション②
10	文献調査・発表およびディスカッション③
11	情報の加工と整理、分析①
12	情報の加工と整理、分析②
13	情報の加工と整理、分析③
14	レポート論文の作成①
15	レポート論文の作成②
16	レポート論文の作成③

【履修上の注意事項】

発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

専門演習基礎

担当教員 安里 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、4年次の卒業論文制作に向けての第1段階となる。まず、情報技術全般に関する基本的な知識を学び、資格取得に向けた対策を行う。目標とする資格としては、「基本情報技術者試験」を設定する。この試験と連動した形で進め、基本的な情報技術を身につける。また、上級情報処理士過程科目の「コンピュータ概論」は受講していること。講義後半では、3年次の専門演習に向けた個別テーマを決定するのでそれまでに基礎知識を身につけて興味のある個別テーマを自ら探すようにして努力して欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本情報技術者試験対策 1
3	基本情報技術者試験対策 2
4	基本情報技術者試験対策 3
5	システム設計とは？
6	プログラミングの課題 1
7	プログラミングの課題 2
8	プログラミングの課題 3
9	プログラミングの課題 4
10	Flashによるアニメーション制作 1
11	Flashによるアニメーション制作 2
12	Flashによるアニメーション制作 3
13	ActionScriptによる制御 1
14	ActionScriptによる制御 2
15	個別テーマ提案プレゼン 1
16	個別テーマ提案プレゼン 2

【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、情報処理関連試験の受験を義務づける。また、演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報関連企業の現場訪問、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

【評価方法】

評価は出席状況や課題レポート・プレゼンにより総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

専門演習基礎

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

情報システムを活用して、情報（データを含む）の収集、蓄積・検索、分析加工等の効果的な情報処理及び管理手法を学び、活用事例などを通して情報リテラシー能力を高めるとともに、実践的情報処理技能を養成する。併せて、OA・情報システム管理技術者としての専門資格取得を目指した自主学習を支援する。最終的には各自が自主的に取り組む卒業研究に向けた課題テーマの設定やテーマに関連する情報の収集・整理、研究計画書作成等を行ない、発表を行う。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ゼミのオリエンテーション
2	レポート・論文等文書の作成・表現技法等の演習
3	同上の課題処理
4	インターネットを活用した情報の収集、管理の演習
5	同上の課題処理
6	データ分析の基本指導
7	EXCELによるデータ分析演習
8	同上の課題処理
9	アンケート調査票の設計・作成
10	アンケート調査データの入力・クロス集計
11	アンケート集計データの分析
12	同上の課題処理
13	パソコンのハード・ソフト・ネットワーク等の組立・設定技法の実習
14	画像・映像データの編集・活用事例研究
15	研究計画書の作成指導
16	同上の課題処理

【履修上の注意事項】

情報リテラシー演習、プログラミング、情報数学、産業情報分析Ⅰ等を履修していることが望ましい。

【評価方法】

課題や研究計画書等の提出、ゼミへの出席状況、資格取得への取り組み等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

“関連資料は、その都度配布する。その他、各ソフトのマニュアルや操作ガイド<Help機能>のほか、発表者作成資料等を使用して演習を進める。”

【参考文献】

参考文献は、必要に応じてその都度、紹介する

専門演習基礎

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学の知識を基に、社会で起こっている不況・失業、金融危機、財政危機、経済の自由化等の事象・現象をわかりやすく解説したい。テーマを決めて、資料を収集、分析し、プレゼンを通じてゼミを進める。

金融、流通、サービス業等への就職を希望する学生を歓迎する。

「楽しくなければゼミではない」をモットーに進めていく。就職に関連した企業訪問も実施する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学の基礎知識
2	経済学を通じて、社会を読み解く
3	テーマ（1）に関して資料を収集、分析（各自）
4	テーマ（1）に関して資料を収集、分析（各自）
5	発表とディスカッション
6	テーマ（2）に関して資料を収集、分析（各自）
7	テーマ（2）に関して資料を収集、分析（各自）
8	発表とディスカッション
9	テーマ（3）に関して資料を収集、分析（各自）
10	テーマ（3）に関して資料を収集、分析（各自）
11	発表とディスカッション
12	テーマ（4）に関して資料の収集、分析（各自）
13	テーマ（4）に関して資料の収集、分析（各自）
14	発表とディスカッション
15	ディベート1
16	ディベート2

【履修上の注意事項】

自分で調べて、まとめ、発表するので、主体性が重要となる。

今、社会から最も求められている資質の一つは情報を収集、分析し、考える理解力とどうすれば改善できるかという「問題解決能力」そして対話し発信する「コミュニケーション能力」である。

これらを一から教えていきたい。

【評価方法】

情報収集、分析、編集したレポートとプレゼン等を総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに沿って適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習基礎

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

Processing (Javaベースのオープンソース統合環境) によるプログラミングを通して問題解決能力の養成、基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。また、プログラミングのみならずフィジカルコンピューティング (マウスやディスプレイ、キーボードなどの既存のコンピュータの入出力だけではなく、センサ・アクチュエータなどを使ってコンピュータと人間とのコミュニケーションを実現するという考え方) についても検討を行っていく。

【授業の展開計画】

Processingプログラミングのみならずフィジカルコンピューティング (マウスやディスプレイ、キーボードなどの既存のコンピュータの入出力だけではなく、センサ・アクチュエータなどを使ってコンピュータと人間とのコミュニケーションを実現するという考え方) についても検討を行っていく。演習の最後に専門演習 I に向けた個別テーマを決定するので、それまでに基礎知識を身につけて興味のある個別テーマを自ら決定する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	Processingプログラミングの基礎 (1)
3	Processingプログラミングの基礎 (2)
4	Processingプログラミングの基礎 (3)
5	2Dグラフィック (1)
6	2Dグラフィック (2)
7	3Dグラフィック
8	イベント処理
9	ライブラリの活用 (1)
10	ライブラリの活用 (2)
11	Processingと外部機器の接続
12	個人製作によるシステムの企画・開発 (1)
13	個人製作によるシステムの企画・開発 (2)
14	個人製作によるシステムの企画・開発 (3)
15	最終発表会 (1)
16	最終発表会 (2)

【履修上の注意事項】

原則として皆出席であること

演習時間以外にも課外活動 (情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等) を課すので、それに対応できるようにすること

情報処理関連試験の取得に積極的に取り組むこと

【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

【テキスト】

田原 淳一郎「Processingプログラミング入門—Javaベースのオープンソース統合開発環境」カットシステム (2010)

【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版 (2006)

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション (2011)

三井 和男「デザイン言語 Processing入門 - 楽しく学ぶコンピューショナルデザイン」森北出版 (2011)

専門演習Ⅲ

担当教員 又吉 光邦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

専門演習Ⅲでは、自ら探究心を持って目標を設定した課題について研究を深めることにある。学生によっては、学会の支部大会や全国大会での発表であるので、それに向けた取り組みを論理的・科学的に押し進める。学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律研究を遂行する積極的姿勢と研究成果を要求する。起業を積極的に進める学生は、その過程を記した報告書を卒業研究・論文として認める。

【授業の展開計画】

Javaのプログラミング技術を必須とする学生は、2年次までに基礎を修得しておくことが大切である。また、論理的な思考を尊重する学生、あるいは論理的思考を身につけたいと望むように日々精進できることが望ましい。

沖縄関連、琉球古典への卒業研究では、表現方法についての学習をしておくことが望ましい。起業を目指す学生は、IT-Frogsの活動や沖縄県や沖縄のITベンチャー企業の方々との積極的な交流を望む。専門演習Ⅰ・Ⅱと同様に、企業の方々との話し合いの場を設け、実務的な立場、社会人から見た場合の意見を聞くことも行われる。また、進化計算と暗号法についての基礎的研究、ならびに応用研究について取り組むことも可能である。進化計算と暗号法に関する卒業研究では、学会での発表もあり得る。

【履修上の注意事項】

礼儀・言葉遣い。

【評価方法】

セミナー出席50%、研究50%。

【テキスト】

電子情報通信学会論文、電気学会論文、人工知能学会論文、情報処理学会論文、全国大会論文集、国際会議論文集。Java関連書籍、Android関連書籍。進化計算関連書籍。暗号関連書籍。

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。暗号法に関する本。海外のProceedingsなど。EclipseやJava、Androidについて書かれた本。シリコンバレーに関する図書や、起業に関する図書。

専門演習Ⅲ

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅱで身につけたプログラミング技能を基に、卒業研究を行うことを目的とする。

【授業の展開計画】

本演習では、専門演習Ⅰ・Ⅱで身につけたプログラミング技能および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。具体的には、各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って、卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ④本演習で取り組んだ内容は卒業論文としてまとめるので、4年次において「卒業論文」を必ず履修すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

専門演習Ⅲ

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

演習Ⅰ、Ⅱでは日本経済、沖縄県経済、沖縄振興計画、地域経済の発展と財政について基本を学び、またレポートのまとめ方やプレゼンテーションの基本を学びました。演習Ⅲでは、これらの内容をより深く学んでいきます。各自でテーマ設定を行い、情報収集、整理、分析、報告レポートの作成、プレゼンテーションとディスカッションを行い、基本的な技能や知識を高めていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	演習Ⅲの留意事項
2	報告レポートのテーマ設定①
3	報告レポートのテーマ設定②
4	報告レポートのテーマ設定③
5	報告レポートの論理展開について①
6	報告レポートの論理展開について②
7	報告レポートの論理展開について③
8	レポート作成の基本①
9	レポート作成の基本②
10	情報収集の要点①
11	情報収集の要点②
12	情報の整理・分析の要点①
13	情報の整理・分析の要点②
14	プレゼンテーションとディスカッション①
15	プレゼンテーションとディスカッション②
16	プレゼンテーションとディスカッション③

【履修上の注意事項】

第一回の演習の際に注意事項を説明します。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、レポートの作成とプレゼンテーションを基に総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは指定しません。演習の際に文献を紹介します。

【参考文献】

演習の際に参考文献を紹介します。

専門演習Ⅲ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

専門演習Ⅲでは、金融経済を対象とした卒業研究に着手する。ゼミ生は、まず研究テーマを選択し、研究対象のデータを収集する。同時に、Microsoft Excelを利用した分析手法の何が各自のテーマに適しているのか検討する。適切な分析手法を選択するには、教科書の内容どおりにExcelを操作するに止まらず、様々なデータで実習した経験が必要になる。なお、ファイナンシャルエコノミクスⅠを必ず受講し、金融経済に関するExcel計算の手法を数多く身につけること。

【授業の展開計画】

- (1) 研究テーマの選択：テーマの論拠となる文献・資料の選択
- (2) 研究対象のデータを特定・収集
- (3) 収集したデータの加工：図表を作成する
- (4) 分析ツールの選択：Excelを利用した経済分析の何が適しているのか
- (5) 分析ツールの習得：出力結果をどのように理解すればよいか

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作より、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣、2004年。

専門演習Ⅲ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰ・Ⅱを受けて、各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

【授業の展開計画】

1週目 課題研究に向けての心構えや年間スケジュール等のオリエンテーション

2～14週目 各自の輪番による課題発表と質疑

15週目 全員による課題研究の中間発表

【履修上の注意事項】

専門演習Ⅰまたは専門演習Ⅱで砂川ゼミ（または情報関係ゼミ）を受講していること。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、中間発表や最終発表、卒業論文提出等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

ゼミ生各自の発表資料

【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

専門演習Ⅲ

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。

【授業の展開計画】

これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

【履修上の注意事項】

原則として皆出席であること。

演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）

専門演習Ⅲ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

開講当初はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作りにも重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢を見せてもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1：ガイダンス
- 2：研究資料の収集方法①
- 3：研究資料の収集方法②
- 4：研究資料の収集方法③
- 5：データの整理と解析手法①
- 6：データの整理と解析手法②
- 7：データの整理と解析手法③
- 8：資料に基づく調査結果報告①
- 9：資料に基づく調査結果報告②
- 10：資料に基づく調査結果報告③
- 11：資料に基づく調査結果報告④
- 12：資料に基づく調査結果報告⑤
- 13：資料に基づく調査結果報告⑥
- 14：専門演習Ⅲ発表会
- 15：専門演習Ⅲ発表会の総括①
- 16：専門演習Ⅲ発表会の総括②

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「情報処理概論」、「プログラミング理論」、「プログラミング演習」の履修を条件とする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

専門演習Ⅲ

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的地域発展を図るための諸方策を探究する。

【授業の展開計画】

専門演習ⅠおよびⅡの学習成果を踏まえ、個別に設定した研究分野に関連したデータや情報を収集するとともに、多変量解析など統計的分析手法を学習しながら、分析結果の取り纏めやプレゼンテーションを行う。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習Ⅲ

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰ・Ⅱで学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら解説していく。夏期休業中に実施される企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどの取り扱いについても説明する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	システム設計系卒論の説明
3	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明
4	卒業論文と就職希望業種との連携
5	eラーニングコンテンツの説明
6	卒論テーマプレゼンテーション1
7	卒論テーマプレゼンテーション2
8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について
9	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？
10	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)
11	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)
12	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション1
13	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション2
14	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション3
15	卒業論文中間発表1
16	卒業論文中間発表2および総括

【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、企業インターンシップへの参加を義務づける。学外講師を招聘し、講話いただく事があるので、その場合には土曜日に時間帯を変更する場合もある。

【評価方法】

評価は出席状況やプレゼンテーションにより総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

専門演習Ⅳ

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習は演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。12月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。

【授業の展開計画】

12月末のプレゼンテーションに向けて、中間発表やグループディスカッションにより、個別テーマの考察を行う。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	過去の卒業論文の紹介
3	システム設計系卒論の目標設定
4	個別報告(プレゼン) 1
5	個別報告(プレゼン) 2
6	個別報告(プレゼン) 3
7	個別報告(プレゼン) 4
8	個別報告(プレゼン) 5
9	個別報告(プレゼン) 6
10	個別報告(プレゼン) 7
11	個別報告(プレゼン) 8
12	個別報告(プレゼン) 8
13	個別報告(プレゼン) 8
14	卒業論文発表会 1
15	卒業論文発表会 2
16	総括

【履修上の注意事項】

4年次配当科目の「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」と密接にリンクしているので、卒業論文作成を念頭に置いたテーマ設定、プレゼンテーションが望まれる。

【評価方法】

評価はプレゼンテーションの内容により判断する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

開講時に個別テーマ毎に指定する。

専門演習Ⅳ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅲに引き続き、各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

【授業の展開計画】

- 1 週目 課題研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2～10週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 11週目 全員による最終発表
- 12～15週目 課題研究レポート作成指導と校正・論文集作成指導

【履修上の注意事項】

専門演習Ⅲ（砂川）を修得した者を優先する。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、発表・質疑の状況、課題発表、レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。ゼミ生各自が調べてきた配布資料

【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

専門演習Ⅳ

担当教員 又吉 光邦

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅳでは、専門演習Ⅲまでの情報処理の基礎の上に、さらに専門的なことを自ら探究心を持って目標を設定した課題について研究成果をまとめ・発表することにある。

学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律的な研究を遂行する積極的態度和研究成果を要求する。起業を行う学生は、指導教員と報告・連絡・相談を密にして商品や起業スタイルの確立を目指す。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅳでは、プログラミング言語 Java を中心にしたオリジナル・システムの開発を行う学生と、進化計算、および暗号法に関する情報処理の学術的な研究を行う学生、沖縄関連の研究を行う学生、あるいは起業関連について研究・実践を通して得た知識／知恵の文書化を行い、その進捗状況に応じてパワーポイントを用いた発表を通してセミナー形式で行う。

研究の発表が、必須。決められた時間内に研究で得た成果を発表しなければならない。

企業の方々からの実務的・実践的な指摘、社会人から見た場合の意見や評価を通して各個人の研究の深化を促すことも行われる。また、進化計算と暗号法についての基礎的研究、ならびに応用研究について取り組むことも可能である。進化計算と暗号法に関する研究では、学会での発表を推奨する。

【履修上の注意事項】

セミナー出席 70%、研究 30%

【評価方法】

学会での発表（人工知能学会全国大会、進化計算学会、電気学会全国大会、情報処理学会全国大会、電機関連学会九州支部連合大会、国際会議）。起業。地域産業へのアプローチ。

【テキスト】

電子情報通信学会会誌・論文、電気学会会誌・論文・全国大会論文集、人工知能学会会誌・論文・全国大会論文集、情報処理学会会誌・論文・全国大会論文集。進化計算関連書籍。暗号法関連書籍。沖縄／琉球関連図書。起業／産業関連図書。

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。暗号法に関する書籍。海外のProceedingsなど。EclipseやJava, Android。沖縄関係の図書や、シリコンバレーに関する図書。

専門演習Ⅳ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

開講当初はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作りにも重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢を見せてもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1：ガイダンス
- 2：基本計画①・・・仕様書
- 3：基本計画②・・・システム化計画書
- 4：基本計画③・・・開発計画書
- 5：外部設計の基本
- 6：内部設計の基本
- 7：プログラム設計の基本①
- 8：プログラム設計の基本②
- 9：モジュール化とインターフェイス
- 10：処理手順のデザイン①
- 11：処理手順のデザイン②
- 12：設計内容の文章化①
- 13：設計内容の文章化②
- 14：設計内容の文章化③
- 15：設計文書のレビュー①
- 16：設計文書のレビュー②

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「情報概論」、「プログラミング理論」、「プログラミング演習」の履修を条件とする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

専門演習Ⅳ

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、これまでに身につけたプログラミング技能を基に、卒業研究を行うことを目的とする。

【授業の展開計画】

本演習では、専門演習Ⅲに引き続き、各受講者の研究テーマについて理解し合い、研究内容を議論する。具体的には、各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って、卒業研究の進捗状況を報告してもらう。また、各受講者の進捗状況を考慮し、研究成果の報告会を開催する。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、各受講生の研究成果を報告会にて発表することを義務づける。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ④本演習で取り組んだ内容は卒業論文としてまとめるので、4年次において「卒業論文」を必ず履修すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

専門演習Ⅳ

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅲに引き続き、これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもら

【履修上の注意事項】

原則として皆出席であること。

演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）

専門演習Ⅳ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅳでは、金融経済を対象とした卒業研究を進行させる。卒業研究は、データを収集・基本的な図表作成の後、Microsoft Excelを利用した分析を行い、計算結果の解釈を積み重ねる試行の繰り返しである。効率的に研究作業を進めるために、研究テーマに応じた参考文献の要点も並行して学んだ方が良い。1月末にテーマ別に卒業研究の報告を行うため、受講生には報告可能な研究成果を要求する。なお、ファイナンシャルエコノミクスⅡを必ず受講し、Excel計算に習熟しておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) 問題意識および仮説の具体化
- (2) 研究領域・データに対応した理論の決定と理解
- (3) 研究テーマに適した分析の積み重ね
- (4) 分析結果の解釈：出力結果と理論の対応
- (5) 卒業研究の報告

【履修上の注意事項】

卒業研究としての成果を要求するので、講義時間外の研究作業が不可欠になる。

【評価方法】

卒業研究の進行状況によって評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣、2004年。

専門演習Ⅳ

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的・地域発展を図るための諸方策を探究する。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅰ～Ⅲの学習成果を踏まえ、個別に設定した研究テーマに関連したデータや情報を収集・分析・研究するとともに、研究成果の取り纏めおよびプレゼンテーションを行い、卒業論文の枠組みを構築する。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習Ⅳ

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

演習Ⅲでは、各自で報告レポートのテーマ設定、論理展開、情報収集、整理、分析について基本的な事項を学びました。演習Ⅳでは、ひきつづき、各自のテーマにそってレポート作成を進め、プレゼンテーションとディスカッションを行います。最終的には卒業論文としてまとめることにします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	演習Ⅳの留意事項
2	報告レポートの作成①
3	報告レポートの作成②
4	報告レポートの作成③
5	報告レポートの作成④
6	報告レポートの作成⑤
7	中間報告とレポートの修正①
8	中間報告とレポートの修正②
9	中間報告とレポートの修正③
10	中間報告とレポートの修正④
11	中間報告とレポートの修正⑤
12	最終報告とディスカッション①
13	最終報告とディスカッション②
14	最終報告とディスカッション③
15	最終報告とディスカッション④
16	演習Ⅳの総括

【履修上の注意事項】

第一回の演習の際に注意事項を説明します。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、レポートの中間報告、最終報告、ディスカッションを基に総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは指定しません。

【参考文献】

演習の際に参考文献を紹介します。

卒業論文演習 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの演習で論文のテーマ設定と展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきた。これらの基本的な知識を基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していく。卒業論文演習 I では、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、概要報告およびディスカッションを通じて論文を完成させていく。

【授業の展開計画】

- 第 1 回 卒業論文のテーマと展開①
- 第 2 回 卒業論文のテーマと展開②
- 第 3 回 卒業論文のテーマと展開③
- 第 4 回 情報収集と分析①
- 第 5 回 情報収集と分析②
- 第 5 回 情報収集と分析③
- 第 6 回 情報収集と分析④
- 第 7 回 卒業論文概要報告①
- 第 8 回 卒業論文概要報告②
- 第 9 回 卒業論文概要報告③
- 第 10 回 卒業論文概要報告④
- 第 11 回 卒業論文概要報告⑤
- 第 12 回 情報収集・分析と論文作成①
- 第 13 回 情報収集・分析と論文作成②
- 第 14 回 情報収集・分析と論文作成③
- 第 15 回 情報収集・分析と論文作成④

【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項を説明します。

【評価方法】

演習への出席状況、論文作成の取り組み、論文の概要報告、ディスカッション等により総合的に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

卒業論文演習 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域の視点から科学的に発展について分析、議論できる素養を身に付けることが本講義の目的である。沖縄経済に関するテーマを各自で決め、関連する文献を読み、分析能力向上のために、統計、計量経済学、産業連関分析のスキルを磨く。

その後、実証分析を通じて、論文作成能力を涵養する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒論のテーマを家呈するための文献の収集と読み込み
2	卒論のテーマの決定とプレゼン
3	卒論の章立て（1）
4	卒論の章立て（2）
5	各章の内容の点検（1）
6	各章の内容の点検（2）
7	統計データの収集と分析（1）
8	統計データの収集と分析（2）
9	統計データの収集と分析（3）
10	統計データの収集と分析（4）
11	統計データの収集と分析（5）
12	各章の点検（1）
13	各章の点検（2）
14	脚注、参考文献の点検
15	卒論の中間発表
16	卒論の中間発表

【履修上の注意事項】

自分で卒論を書く覚悟が必要である。

【評価方法】

卒論の内容、プレゼンの内容によって評価する。

【テキスト】

その都度、知らせる。

【参考文献】

その都度、知らせる。

卒業論文演習 I

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

【授業の展開計画】

- 1 週目 卒論研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2～14週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 15週目 全員による卒論中間発表会
- 16～24週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 25週目 全員による卒論最終発表会
- 26～30週目 卒論研究レポート作成指導と校正・論文集作成指導

【履修上の注意事項】

小生担当の専門演習Ⅲ、Ⅳを修得した者を優先する。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、発表・質疑の状況、卒論発表、卒論レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。ゼミ生各自が調べてきた配布資料

【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

卒業論文演習 I

担当教員 カレン ルパース

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The purpose of this seminar-level class (senior-year thesis) is multifaceted: the material output is to be an acceptable undergraduate thesis, accompanied by one or more oral presentations of the student's work. During this senior year, students must provide evidence of their acquired ability to produce independent work and should demonstrate their having acquired skills that contribute to effective teamwork: analytical skills, task-specific skills, skills of negotiation and instruction, and concern for quality of work and the well-being of their classmates.

【授業の展開計画】

The precise schedule of this kind of course is heavily dependent on the progress of the students involved. At present (the time of preparation of this syllabus), it is anticipated that the class will be divided into three or more sections of one to four students per section. During scheduled class periods, students are personally responsible for their effective use of time and equipment, but in the case of teams of two or more persons, students are also responsible to their teammates. Students, and teams, are also responsible for scheduling appointments with me, or others, as needed. (Thesis/presentations may be in Japanese, supplemented by English.)

It is assumed that the students will use the first semester to draft an initial thesis and then present it to classmates before the end of the semester so that they can more effectively use the interim period between semesters to modify or embellish their work.

Although students will be in self-elected "teams" (even if only in a one-person team), students are expected to be attentive to and supportive of classmates in other teams.

Delinquency during the first semester is tolerated but not condoned.

An absolute requirement for this class is that students EACH notify me (by cellmail and with a copy to my PC-mail) no less than 24 hours before EVERY class period, affirming intention to attend, or explaining anticipated absence or tardiness. Moreover, each student MUST similarly contact me by email within 48 hours following every class period, explaining briefly what he did or accomplished during that scheduled class period. Teams have a right to reschedule their meetings to other times/venues provided that they notify ALL classmates AND obtain my approval.

Notification failure equates to an unexcused absence, five of which will result in a non-passing grade.

【履修上の注意事項】

ALL absences (excused or unexcused) must be "made up" before registration for the second semester. No passing grade will be assigned until all required work is completed.

【評価方法】

In principle, grading is by peer- and self-assessment, contingent upon approval of the instructor.

【テキスト】

No uniform text is assigned. Materials used in class are variable according to current needs.

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 安里 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅳにおいて演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある個別テーマを選定し、調査研究した結果をプレゼンテーションしたが、卒業論文では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対する意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- Javaを利用したシステム設計
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- Flashを用いた教育支援ツールの作成
- MAYAを利用したコンピュータグラフィックス制作（マルチメディア学校案内）
- eマーケットプレースの現状と課題
- PHP, Perl, JavaScriptを用いたツールおよびアプリケーション作り
- ICタグの可能性およびマーケティングリサーチ

【履修上の注意事項】

基本的に演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳからの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、演習Ⅲ、Ⅳとの同時受講は認める。

【評価方法】

制作した卒業論文を評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義時に個別に指定する。

卒業論文演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】

本講義では、専門演習 I～IVで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

卒業論文の内容および出席状況により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

卒業論文演習 I

担当教員 又吉 光邦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文では、3年次までに進めた自ら研究を文書でまとめ、提出しなければならない。各学生個人が、それぞれ独自の卒業研究をもとに卒業論文作成を遂行する。

【授業の展開計画】

4月～5月：3年次までの卒業研究をまとめた卒業研究論文のレジメ作成を行う。

6月～7月：作成したレジメを基に中間発表会を行う。中間発表では、プロジェクタを利用する。また、卒業論文（中間資料）を制作し提出する。発表は、ホテルの会議室などでの学術発表形式を行う。

また、企業訪問を行う場合もある。

【履修上の注意事項】

言葉づかい。礼儀。

【評価方法】

セミナー出席50%、卒業論文の提出と発表50%

【テキスト】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

【参考文献】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

卒業論文演習 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

専門演習Ⅳで報告した卒業研究をベースに、卒業論文を完成させることが目的である。執筆作業は、報告した研究レジュメの加筆・修正を手始めとする。具体的には、まとめるまでに至らずに報告できなかった事項、理解が不十分なまま報告してしまった事項、不適切さを指摘された事項、などが対象である。これらの作業を通じ、研究内容の充実を図ってもらいたい。なお、就職活動や公務員・教員試験の時期と重なるため、受講生の諸状況に合わせ、指導する。

【授業の展開計画】

- (1) 問題意識および仮説の再確認
- (2) 参考資料のまとめなおし
- (3) 分析手法の再確認
- (4) Excel計算結果の再解釈
- (5) 中間報告レジュメの再執筆

【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文としてまとめ上げるには、講義時間外の作業を要する。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

【評価方法】

論文執筆の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社，2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会，2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣，2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣，2004年。

卒業論文演習 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報の収集力、問題の発見力と分析力を高めるとともに卒業論文を取り纏める。

【授業の展開計画】

演習Ⅲ・Ⅳの学習成果を踏まえ、個別に設定した卒業論文の枠組みに沿って、情報やデータの収集・調査・分析を行うと同時に研究発表を重ね、卒業論文の論点的確性、内容や表現の明確性、方法の妥当性を高める。

【履修上の注意事項】

第一回の演習時に説明する。

【評価方法】

出席や研究発表の状況などに基づき総合的に評価する。

【テキスト】

各自の研究テーマに即した資料を配布し、図書を紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習 I から IV で習得した知識、技術の集大成として卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会においてその成果を広く公表する。

なお卒業論文では、原則としてシステム開発を義務づけているため、本講義ではシステム開発の基礎となる資料収集ならびに調査にあたり卒業論文の意義、新規性などを明確にしながら研究計画書を作成する。

【授業の展開計画】

- 1：卒業論文について
- 2：研究資料の収集方法①
- 3：研究資料の収集方法②
- 4：資料に基づく調査結果報告①
- 5：資料に基づく調査結果報告②
- 6：資料に基づく調査結果報告③
- 7：資料に基づく調査結果報告④
- 8：資料に基づく調査結果報告⑤
- 9：資料に基づく調査結果報告⑥
- 10：研究計画書の作成手順①
- 11：研究計画書の作成手順②
- 12：研究計画書の作成①
- 13：研究計画書の作成②
- 14：研究計画書のレビュー①
- 15：研究計画書のレビュー②
- 16：研究計画書のレビュー③

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習 I」から「専門演習 IV」の履修を条件とする。

卒業論文では、システム開発を義務付ける。

またより積極的、主体的な取り組みとなるよう、複数人での卒業論文は認めない。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、卒業論文、卒業論文研究発表会等を総合的に判断する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを随時紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰにおける中間発表を基に、点検、議論を重ね、卒論の完成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒論の中間発表を基に質問、アドバイスに対する対応のチェック (1)
2	卒論の中間発表を基に質問、アドバイスに対する対応のチェック (2)
3	卒論の中間発表を基に質問、アドバイスに対する対応のチェック (3)
4	卒論の中間発表を基に質問、アドバイスに対する対応のチェック (4)
5	各章の内容の再チェック (1)
6	各章の内容の再チェック (2)
7	各章の内容の再チェック (3)
8	各章の内容の再チェック (4)
9	各章の内容の再チェック (5)
10	起承転結のチェック (1)
11	起承転結のチェック (2)
12	起承転結のチェック (3)
13	起承転結のチェック (4)
14	起承転結のチェック (5)
15	卒論発表会
16	卒論発表会

【履修上の注意事項】

【評価方法】

卒論の内容、プレゼンの内容によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

その都度紹介する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰで論文のテーマ・展開について確定し、情報収集、分析、概要報告を通じて論文作成に取りかかっている。卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、分析をより進め、論文の作成を進めていく。中間報告で論文の全体的な進み具合を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいく。最終報告で研究した知見を報告し、質疑を通じて知見を深める。

【授業の展開計画】

- 第1回 情報収集・分析と論文作成①
- 第2回 情報収集・分析と論文作成②
- 第3回 情報収集・分析と論文作成③
- 第4回 情報収集・分析と論文作成④
- 第5回 情報収集・分析と論文作成⑤
- 第6回 卒業論文中間報告①
- 第7回 卒業論文中間報告②
- 第8回 卒業論文中間報告③
- 第9回 卒業論文中間報告④
- 第10回 卒業論文の修正①
- 第11回 卒業論文の修正②
- 第12回 卒業論文の修正③
- 第13回 卒業論文最終報告①
- 第14回 卒業論文最終報告②
- 第15回 卒業論文最終報告③
- 第16回 卒業論文の総括

【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項をお知らせします。

【評価方法】

卒業論文演習Ⅱへの出席状況、論文の取り組み、中間報告、最終報告の状況を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習ⅠからⅣならびに卒業論文演習Ⅰで習得した知識、技術の集大成として卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公表する。

卒業論文演習Ⅰにおいて作成された研究計画書に基づきシステム開発を行い、有用性をはじめとしたフィージビリティスタディを検証した後、卒業論文を作成し、卒業論文研究発表会に備える。

【授業の展開計画】

- 1：卒業論文について
- 2：システム開発①
- 3：システム開発②
- 4：システム開発③
- 5：システム開発④
- 6：システム開発⑤
- 7：システムレビュー①
- 8：システムレビュー②
- 9：システムレビュー③
- 10：卒業論文作成①
- 11：卒業論文作成②
- 12：卒業論文作成③
- 13：卒業論文作成④
- 14：卒業論文作成⑤
- 15：卒業論文中間発表会
- 16：卒業論文研究発表会

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ」から「専門演習Ⅳ」ならびに「卒業論文演習Ⅰ」の履修を条件とする。

卒業論文では、システム開発を義務付ける。

またより積極的、主体的な取り組みとなるよう、複数人での卒業論文は認めない。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、卒業論文、卒業論文研究発表会等を総合的に判断する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを随時紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 又吉 光邦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文では、3年次までに進めた自ら研究を文書でまとめ、提出しなければならない。各学生個人が、それぞれ独自の卒業研究をもとに卒業論文作成を遂行する。また、卒業研究論文の発表（最終発表）を必ず行う。

【授業の展開計画】

9月～11月：卒業論文演習Ⅰで作成した卒業研究の中間成果をまとめて卒業研究論文の作成を行う。
12月～2月：卒業研究論文を発表（最終発表）できるようにまとめる。最終発表では、プロジェクトを利用する。発表は、ホテルの会議室などでの学術発表形式を行う場合もある。

【履修上の注意事項】

言葉づかい。礼儀。

【評価方法】

セミナー出席50%、卒業論文の提出と発表50%

【テキスト】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

【参考文献】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 平良 直之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】

本講義では、専門演習Ⅰ～Ⅳで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。卒業論文演習Ⅰと同様に、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

出席状況および卒業論文、成果発表により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報の収集力、問題の発見力と分析力を高めるとともに卒業論文を取り纏める。

【授業の展開計画】

卒業論文演習Ⅰの学習成果を踏まえ、情報やデータの収集・調査・分析を行うと同時に研究発表を重ね、卒業論文の論点の的確性、内容や表現の明確性、方法の妥当性を高め、卒業論文を取り纏める。

【履修上の注意事項】

第一回の演習時に説明する。

【評価方法】

出席状況や研究発表の状況を踏まえて総合的に評価する。

【テキスト】

研究内容に沿って適宜参考資料を配付し図書を紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 カレン ルーダス

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The purpose of this class is to give the students the opportunity to complete the departmental requirement of writing and presenting their graduation theses. A secondary purpose is to provide support and guidance for the student in his final semester at the university. Students registered for this class are expected to complete their own tasks and to provide encouragement, and perhaps assistance, to classmates who are also struggling to complete their work.

【授業の展開計画】

Ideally, students will have already prepared one or more drafts of their thesis before registration, and will have had at least one presentation of their thesis. This last semester, then, is for revising and improving their work (both written and oral presentation).

However, it IS possible for students to alter or change their topic during this semester provided they are able to complete all requirements by the deadline.

The deadline is the end of December of this year, by which time students should have fulfilled their obligation of presentation and should have available (for other students and for the teacher) both a hard copy and an electronically transmissible copy of their thesis.

Upon approval by all class members, thesis presentation can be made after the December deadline but before end of term-final examination week.

Although the first semester of Thesis was conducted through team-managed projects, students may elect to alter team membership or to go fully independent during this second semester.

Though the thesis is expected to be in Japanese, all tables, graphs, figures, titles, section headings, key words, table of contents, abstract and summaries should be accessible to readers of English who are not competent in Japanese. That is, supplementary English is required for some of the written output of students' work. (Assisting them with that task is one of my responsibilities, but I do not provide translation.)

Students are expected to contribute to class progress by willingly serving on editorial boards and by proofreading their classmates' work.

【履修上の注意事項】

Students are individually responsible for their fulfilling class assignments (see Thesis I notes).

【評価方法】

As in Thesis I, this class is in principle graded by peer- and self-evaluation, vulnerable to amendment by the teacher.

【テキスト】

At present, no assigned text is anticipated. It is the students' responsibility to acquire the skills and information needed to complete their tasks, and to share such skill and information with their classmates.

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰで行った報告レジュメの加筆・修正をベースに、卒業論文を完成させる。報告レジュメを論文として完成させるには、参考文献・資料やExcel分析の追加が不可欠である。専門演習Ⅲ以来、1年以上にわたって同一テーマを考察し続けてきたため、ゼミ生には、これら追加的作業の自主性・工夫を求めたい。そのためには、研究の進行に計画と修正が必要になる。半年の限られた時間の中での執筆になるが、適切な問題意識と仮説から明確な結論を導く卒業論文を目指したい。

【授業の展開計画】

- (1) 論文構成の工夫，タイトルの決定
- (2) 参考文献・資料の追加
- (3) Excel分析の追加
- (4) 追加した分析の解釈
- (5) 研究成果のまとめ，文章化

【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文としてまとめ上げるには、講義時間外の作業を要する。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

【評価方法】

卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社，2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会，2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣，2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣，2004年。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 安里 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文Ⅰにおいて演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび企業インターンシップで学んだ基本的小および実践的情報技術の中で、特に興味のある個別テーマを選定し、調査研究した内容をまとめたが、引き続き、卒業論文Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、最終的な卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対しての意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- Javaを利用したシステム設計
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- Flashを用いた教育支援ツールの作成
- MAYAを利用したコンピュータグラフィックス制作（マルチメディア学校案内）
- eマーケットプレースの現状と課題
- PHP, Perl, JavaScriptを用いたツールおよびアプリケーション作り
- ICタグの可能性およびマーケティングリサーチ

【履修上の注意事項】

基本的に演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳからの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、演習Ⅲ、Ⅳとの同時受講は認める。

【評価方法】

制作した卒業論文を評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義時に個別に指定する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域産業概論

担当教員 兪 炳強

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、地域産業の構造変化や振興のあり方について講義する。具体的には、前半では、地域と産業の関わり方、地域の産業構造、産業の立地および集積などに関する基礎的理論を講義する。後半では、沖縄を事例に、地位産業の実態および今日的課題について講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	地域と産業・経済
3	地域と産業構造
4	産業の立地
5	産業集積
6	産業ネットワーク
7	産業クラスター
8	中間まとめ
9	沖縄の産業・経済の全体像
10	沖縄の産業経済政策
11	沖縄の産業構造
12	沖縄の第一次産業
13	沖縄の第二次産業
14	沖縄の第三次産業
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、履修態度および試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

プリントおよびPDFファイルを配布する。

【参考文献】

伊藤正昭『新版 地域産業論』学文社、田中史人『地域企業論』同文館出版、内田真人『現代沖縄経済論』沖縄タイムズ社、そのほか授業内容に合わせて適宜紹介する。

地域産業政策論

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済発展論、地域分析論の基礎習得を基に、地域の経済システムの全体像を把握させる。現代の先進国や地域は、環境問題や人間疎外等の新たな現代病に直面している。地域の産業活動の実態や課題を理解させつつ、地域の発展とは何かについて共に考えたい。
沖縄21世紀ビジョン、それを基にした2012年度からスタートする「新たな計画」についても開設し、沖縄の将来展望についても論じる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域の産業政策とは
2	地域の産業と発展
3	沖縄経済分析の視点
4	発展プロセス 戦前期
5	発展プロセス 復帰前
6	発展プロセス 復帰後
7	沖縄経済の構造分析
8	地域の産業分析
9	基地経済
10	沖縄振興計画
11	振興計画とインパクト要因
12	沖縄経済の政策評価
13	沖縄経済の残された課題
14	沖縄21世紀ビジョン
15	沖縄の「新たな計画」
16	沖縄の発展とソフトパワー

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストとレポートにより評価する。

【テキスト】

特定のテキストはないが、各論において適宜紹介する。

【参考文献】

富川 盛武「沖縄の発展とソフトパワー」沖縄タイムス社

地域財政論 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地方公共団体はこれまで国の財政と連携して、地域公共財の供給をはじめとした役割を果たしてきました。今日、地方分権の推進により、国と地方の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっており、また、地方公共団体の地域公共財の供給、地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方分権の流れや、全国の中でも財政依存の高い沖縄県の財政についても見ていきます。

【授業の展開計画】

- (1) 地域と財政①
- (2) 地域と財政②
- (3) 地方分権と国，地方の役割①
- (4) 地方分権と国，地方の役割②
- (5) 地域公共財①
- (6) 地域公共財②
- (7) 地方歳入について
- (8) 地方歳出について
- (9) 一般財源補填による財源調整①
- (10) 一般財源補填による財源調整②
- (11) 特定補助金のしくみと課題①
- (12) 特定補助金のしくみと課題②
- (13) 沖縄県の財政と課題①
- (14) 沖縄県の財政と課題②
- (15) 期末試験

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は、必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

- ① 「地方財政」，林宜嗣著，有斐閣ブックス，② 「地方財政白書」，自治省

【参考文献】

- ① 「地方財政読本」林健久編、東洋経済新報社、② 「分権社会の地方財政」林宏昭著、中央経済社

地域財政論Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

まず、地方分権と税財源の拡充，地方債，地方公営企業，第三セクター，都市の財政問題について理解を深めます。次に地方公共団体の地域振興における役割と産業振興における政策展開について取り上げます。今日，地域間の競争が高まる中で，地方公共団体の地域振興における役割が益々高まってきており，とくに産業振興について検討することが重要になってきています。

【授業の展開計画】

- (1) 地方分権と税財源の拡充①
- (2) 地方分権と税財源の拡充②
- (3) 地方債と財源調達弾力化
- (4) 地方公営企業と第三セクターの課題①
- (5) 地方公営企業と第三セクターの課題②
- (6) 高齢化と地方公共団体の役割
- (7) 都市財政①
- (8) 都市財政②
- (9) 地域振興と地方公共団体の役割①
- (10) 地域振興と地方公共団体の役割②
- (11) 産業振興と政策展開①
- (12) 産業振興と政策展開②
- (13) 情報化と地方公共団体の対応①
- (14) 情報化と地方公共団体の対応②
- (15) 期末試験

【履修上の注意事項】

地域財政論Ⅰを履修していることが望ましい。第一回目の講義の時間に留意事項を連絡します。

【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

- ①「地方財政」，林宜嗣著，有斐閣ブックス，

【参考文献】

- ①「地方財政」，橋本，牛島，米原，本間編有斐閣、②「地方財政白書」，総務省

地域資源経済論 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地域における産業経済活動と地域資源環境問題との相互関係についての理解を深め、理論的実践的知識を習得する。

【授業の展開計画】

本講義では、主として経済学の視点から、地域における産業経済活動と資源環境問題との相互関係について理論的実証的に講義を行う。前半では、地域資源問題および地域資源の利用と保全に関わる基礎的内容について理解を深め、後半では、観光資源に着目し、その評価、利用と保全のあり方について考察する。

週	授 業 の 内 容
1	いまなぜ地域資源問題か
2	資源問題と資源経済学
3	資源問題の展開とその根源
4	資源問題の基本概念（1）
5	資源問題の基本概念（2）
6	再生可能資源の経済学
7	枯渇性資源の経済学
8	中間まとめ
9	地域資源の特性と活用
10	地域資源の再評価
11	観光資源の開発と活用
12	観光資源の評価（1）
13	観光資源の評価（2）
14	観光資源の評価（3）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

岩淵孝『現代世界の資源問題入門』大月書店、J.M.コンラッド『資源経済学』岩波書店、時政島ほか『環境と資源の経済学』勁草書房、ほか。

地域資源経済論Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地域における産業経済活動と地域資源環境問題との相互関係について理解を深め、環境資源経済分析に関わる理論的実践的知識を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	環境資源問題の諸相
3	経済発展と環境資源問題
4	環境・資源と経済
5	市場の機能
6	市場の失敗
7	環境政策の原則と手段
8	中間まとめ
9	コマンド・アンド・コントロール戦略：環境基準
10	誘因に依拠する政策戦略：排出課徴金と補助金
11	誘因に依拠する政策戦略：排出権
12	環境資源評価の経済理論
13	環境価値の評価方法（1）
14	環境価値の評価方法（2）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

時政島ほか『環境と資源の経済学』勁草書房、バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社、環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣ブックス、など。

地域発展論

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地域の視点から科学的に発展について分析、議論できる素養を身につけることが本講義の目的である。経済発展論、地域分析論の基礎習得を基に、地域の経済システムの全体像を把握させる。地域を取り巻く経済的・社会的環境が激変する中、理論・実証の研究を通じて、経済の「法則性」を見極める目を涵養する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域分析の視点と意義
2	地域と経済
3	地域構造
4	地域発展とは
5	地域計画
6	政策評価
7	地域と人口
8	人口推計
9	少子化と地域
10	地域の持続的発展
11	スマート・シティ
12	地域分析から見た沖縄（1）
13	地域分析から見た沖縄（2）
14	地域分析から見た沖縄（3）
15	地域分析から見た沖縄（4）
16	地域のソフトパワー

【履修上の注意事項】

講義だけでなく、パソコンを使いながら地域分析も行う。

【評価方法】

テストとレポートによって評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

富川 盛武「沖縄の発展とソフトパワー」沖縄タイムス社

知的情報処理

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

今日の企業においては、変動の激しい市場や社会からの多様な要求に対して迅速かつ柔軟に 대응していくことが必要である。このことを実現するためには、経験や勘に頼るだけでなく、得られた情報を柔軟に捉え知的に処理するための理論的枠組みが重要となる。本講義では、人間の嗜好や予測を定量的に扱う概念として知られるファジィ理論を中心に、知的情報処理について学習する。

【授業の展開計画】

本講義では、不確定情報や主観的判断の計測、知的尺度、推論などの概念とこれらを扱う手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的情報処理の概要
3	情報と曖昧さ(1)
4	情報と曖昧さ(2)
5	不確定情報の処理(1)
6	不確定情報の処理(2)
7	知的尺度の処理(1)
8	知的尺度の処理(2)
9	知的尺度の処理(3)
10	システム制御とファジィ関係(1)
11	システム制御とファジィ関係(2)
12	システム制御とファジィ関係(3)
13	知的情報処理と推論アルゴリズム(1)
14	知的情報処理と推論アルゴリズム(2)
15	知的情報処理と推論アルゴリズム(3)
16	

【履修上の注意事項】

第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果, 出席状況, レポートにより評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

- ・中島信之：『ファジィ数学のおはなし』倍風館(1997)
- ・井上洋、天笠美知夫：『ファジィ理論の基礎』朝倉書店(1997)

データ解析論 I

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、統計・統計学についての基本的な概念について解説し、具体的かつ身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの実用的な演習などを行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	データの種類①データの性質、クロス集計表
3	データの種類②度数分布表、ヒストグラム
4	記述統計学①平均
5	記述統計学②分散、標準偏差
6	記述統計学③基準値と偏差値
7	記述統計学④正規分布、確率密度関数
8	記述統計学⑤演習、計算問題
9	推測統計学①母集団と標本
10	推測統計学②大数の法則、中心基本定理
11	推測統計学③母平均の推定
12	推測統計学④母比率の推定
13	推測統計学⑤演習、計算問題
14	相関：相関係数、因果と相関
15	総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。
数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年

【参考文献】

菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年

今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年

データ解析論Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、データ解析論Ⅰに引き続き、回帰分析を中心に経済・経営の計量分析における基本的な分析手法について解説を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	単回帰分析①：回帰分析の具体例、回帰分析の流れ
3	単回帰分析②：誤差項の前提、最小二乗法、微分
4	単回帰分析③：相関係数、寄与率（決定係数）
5	単回帰分析④：仮説検定
6	単回帰分析⑤：信頼区間
7	重回帰分析①：重回帰分析の具体例、重回帰分析の流れ
8	重回帰分析②：重相関係数、自由度調整済み寄与率（決定係数）
9	重回帰分析③：仮説検定・信頼区間
10	重回帰分析④：ダミー変数を用いた重回帰分析
11	重回帰分析⑤：誤差項の前提・演習、計算問題
12	数量化理論①：多変量解析
13	数量化理論②：主成分分析
14	数量化理論③：因子分析
15	総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

データ解析論Ⅰの履修が望ましい。

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学回帰分析編』オーム社2005年

【参考文献】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学因子分析編』オーム社2006年

データベース

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・データベースとは
2	リレーショナルデータベースの基本 (1)
3	リレーショナルデータベースの基本 (2)
4	SQL (1)
5	SQL (2)
6	SQL (3)
7	SQL (4)
8	トランザクションとロック
9	インデックスデータベースの性能向上
10	ビューー仮想表による定義
11	ストアドプロシージャデータベースアクセスの手続き化
12	ストアドファンクションとトリガー
13	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)
14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (3)
16	総まとめ・期末試験

【履修上の注意事項】

Webアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。

ウェブプログラミングを履修済みであることが望ましい

(データベースとしてMySQLを使用します)。

プログラミング演習、プログラミング I・II を履修済みであることが望ましい

(Javaによるアプリケーションの作成があります。Javaに関するある程度の知識が必要です)。

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。出席状況、授業への取り組み、課題、試験等により総合的に判断を行う。

【テキスト】

山田祥寛「MySQLで学ぶデータベース超入門」翔泳社 (2009)

【参考文献】

谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社 (2009)

弓場秀樹, 武田喜美子「データベース設計・構築 [基礎+実践] マスターテキスト」技術評論社 (2003)

柴田 望洋「明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)

パブリックファイナンス

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

公共部門（中央政府，地方公共団体）の役割は，市場を通じては供給不可能か困難である公共財を供給すること及び民間部門（家計，企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにある．講義では国の財政についてとりあげる．はじめに財政の役割，しくみを学習し，所得税，消費税，法人税について学ぶ．次に，公共事業，社会保障といった支出についてふれる．とくに日本の財政赤字の問題と財政の持続可能性についてとりあげる．

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市場と公共部門の役割①
2	市場と公共部門の役割②
3	財政のしくみ①
4	財政のしくみ②
5	租税について①（所得税）
6	租税について②（消費税、法人税）
7	公債について
8	公共支出について①（公共事業）
9	公共支出について②（社会保障）
10	財政赤字と財政の持続可能性①
11	財政赤字と財政の持続可能性②
12	社会保障と財政①（年金）
13	社会保障と財政②（医療）
14	情報化と公共部門の役割①
15	情報化と公共部門の役割②
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は，必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

テキストは第一回目の講義で連絡します。連絡を受けてから購入して下さい。

【参考文献】

①「財政学」林宜嗣，新世社、②「日本の財政改革」青木昌彦・鶴光太郎編著，東洋経済

ビジネス英語

担当教員 カレン ルーダース

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

The purpose of this class is to give students opportunities to learn and practice the usage of the kind of English which is appropriate to general business situations, specifically office-related concerns. Students will get practice in recognizing and using the forms of English commonly used in business; however, "tourism English" is not the focus of this class.

【授業の展開計画】

The class will begin with a survey of the needs and wishes of the students enrolled in the class, and the results of that survey will be presented to the students, who will then negotiate with the teacher regarding the goals and tasks to be undertaken by the class.

Initially, the students will work in competitive groups to respond to tasks and inquiries presented by the teacher. After the students have become more familiar with each other and with the teacher's expectations and style of class, students will group into teams of four to six persons.

Each such team will create its own "company," complete with name, logo, corporate mission, advertisements, name-cards, etc. For example, in a similarly structured class in the distant past, one group established itself as an airline called "IRIS" (International Ryukyu Island Service).

Each "company" will advertise (within the class) for new employees, will interview applicants, and hire new employees. (Class members simultaneously apply for advertised positions.)

On a rotating basis, students additionally perform other "part-time employment" functions such as banking, courier service, call-center service, etc.

The progress and success of the class depends on the energy and enthusiasm of the participants, who should expect to spend at least two hours a week in class preparation outside of class, the class preparation including working with teammates.

【履修上の注意事項】

Students are expected to attend ALL classes and should not register unless they are willing to work with others. As mentioned, a minimum of two hours per week of out-of-class meetings and preparation will be needed. Students may bring their PC to class, but should NOT be using the PC during any class presentation or when a student or teacher is trying to address the class. Policy on absence is explained during registration week (some absences ARE excusable),

【評価方法】

In principle, class is dependent on peer- and self-evaluation. Students "contract" for a grade at the beginning of class and must then perform according to the grade they wish to receive. If their performance/attendance is deficient, they may receive a grade lower than what they had hoped for.

【テキスト】

Materials used in class are produced by the teacher or provided by students. There will be discussion of copyright violations early in the semester. Students are expected to respect the work of others, and to give credit accordingly.

【参考文献】

ファイナンシャルエコノミクス I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で利用される基本計算を理解することがファイナンシャルエコノミクス I の目的である。学習の対象は家計(個人)と企業の金融行動である。授業の展開計画にみられるように、講義では様々な計算方法を実習する。実習内容が多いと、受講生は、目の前のExcel画面だけに注意が行きがちである。だが、Excel計算が目新しくても、考察対象は実生活(特に卒業後の)と関わりがあることを常に意識して欲しい。これがファイナンス計算を理解するコツだと考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済活動とファイナンス：イントロダクション
2	ファイナンスの基礎概念の計算 1：現在価値と将来価値，内部収益率
3	ファイナンスの基礎概念の計算 2：積立預金の将来価値
4	ファイナンスの基礎概念の計算 3：均等返済スケジュール
5	ファイナンスの基礎概念の計算 4：年金の問題
6	学習内容の復習 1
7	資本コストの計算 1：株主資本コスト
8	資本コストの計算 2：負債コスト
9	資本コストの計算 3：加重平均資本コスト
10	1 資産のリターンとリスク
11	学習内容の復習 2
12	ポートフォリオ計算の基礎 1
13	ポートフォリオ計算の基礎 2
14	ポートフォリオ計算の基礎 3
15	学習内容の復習 3
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作そのものより、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展し、ファイルを作成していくため、遅刻や欠席が続くと受講が困難になる。

【評価方法】

出席，講義中の学習状況，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会，2006年。

【参考文献】

- [1] 滝川好夫『チャートでわかる 入門ファイナンス理論』日本評論社，2007年。
- [2] 野口悠紀雄『ビジネスに活かす ファイナンス理論入門』ダイヤモンド社，2004年。

ファイナンシャルエコノミクスⅡ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で多用される具体的な分析方法を理解することがファイナンシャルエコノミクスⅡの目的である。主として株式を利用した貯蓄に関する分析方法を実習する。受講生の多くは、貯蓄を目的にしながら損失が発生する状況があることを、本講義を通じて初めて知るかもしれない。なぜ「貯蓄するのに損失なのか」という問題意識を持つことで、ファイナンス分野で数学が多く利用される理由に納得し、実生活で役立ちそうな興味が湧くと考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ファイナンスの基本計算：イントロダクション
2	1 資産のポートフォリオ計算
3	2 資産のポートフォリオ計算
4	効率的フロンティアと資本市場線 1：4 資産のポートフォリオ
5	効率的フロンティアと資本市場線 2：Excel操作による理解
6	効率的フロンティアと資本市場線 3：モデル式の理解
7	効率的フロンティアと資本市場線 4：無リスク資産と資本市場線
8	効率的フロンティアと資本市場線 5：まとめ
9	学習内容の復習 1
10	資本資産市場モデル 1：ベータ・リスクの推定
11	資本資産市場モデル 2：証券市場線
12	学習内容の復習 2
13	ブラック・ショールズ・モデル 1：オプションの理論①
14	ブラック・ショールズ・モデル 2：オプションの理論②
15	学習内容の復習 3
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作そのものより、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展し、ファイルを作成していくため、遅刻や欠席が続くと受講が困難になる。

【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

【テキスト】

滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 滝川好夫『チャートでわかる 入門ファイナンス理論』日本評論社、2007年。
- [2] 野口悠紀雄『ビジネスに活かす ファイナンス理論入門』ダイヤモンド社、2004年。

プログラミング理論

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

コンピュータ・ソフトウェアを中心とした情報処理の基本的な問題を扱う。具体的には、プログラミング言語の種類、流れ図の基本、基本アルゴリズムの理解、プログラミング言語Javaのコーディングの参考例などを取り上げて講義を進めていく。本講義では、基本的な論理構成手法（基本アルゴリズム）を覚えること（英語の基本文法を覚えるようなもの）を基本に、例題を基本アルゴリズムの組み合わせで構成し（簡単な英作文を練習するようなもの）、フローチャート（流れ図）の作成等を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス 「プログラミングとは？」
2	アルゴリズム・フローチャート・構造化プログラミング
3	プログラミング言語の種類と分類
4	データ累計とカウンタ
5	java言語によるプログラム例
6	基本データ構造 1次元配列
7	基本データ構造 2次元配列
8	前半まとめおよび中間試験
9	システムエンジニアの仕事とは？
10	スタック・キュー・リスト
11	サーチ（検索）アルゴリズム
12	ソート（並べ替え）アルゴリズム 1
13	ソート（並べ替え）アルゴリズム 2
14	その他の応用アルゴリズム
15	後半まとめおよび最終試験
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。2年次以上の受講生は注意すること。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

【参考文献】

プログラミング I

担当教員 平良直之、大井 肇、小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、基本的なプログラミング技術の習得を目指すものである。プログラミング言語としてJavaを採用しているが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮している。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プログラミング言語とJava
2	変数における識別子と型
3	変数における宣言と利用
4	式と演算子
5	演算子の優先順位と型変換
6	関係演算子とif文
7	if-else文とswitch文
8	for文とwhile文
9	do-while文
10	配列
11	多次元配列
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解
13	フィールドとメソッド
14	オブジェクトの作成
15	オブジェクトの利用
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目には出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する予定である（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

プログラミングⅡ

担当教員 安里 肇、小渡 悟、大井 肇

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	構造化プログラミングの復習 1
3	構造化プログラミングの復習 2
4	構造化プログラミングの復習 3
5	構造化プログラミングのまとめおよび試験
6	クラスの基本 1
7	クラスの基本 2
8	単純なクラスの作成 1
9	単純なクラスの作成 2
10	クラス変数とクラスメソッド 1
11	クラス変数とクラスメソッド 2
12	パッケージ
13	クラスの派生と多相性
14	抽象クラス
15	オブジェクト指向のまとめおよび試験
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。プログラミングⅠを取得済みの者のみ登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験およびレポート(260点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

【参考文献】

開講時に指定する。

プログラミングⅡ

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、日々の生活で使用する住所録や家計簿等をはじめ、卒業研究の過程で収集、解析するデータを効率よく管理、利用できるようにするための基礎的な技術力を習得することを目的とする。そこで、Microsoft Access（データベース）のVBA（Visual Basic for Application）について、実際にプログラミングを行いながら習得する。まずは、Microsoft Accessを用いて、データベースの概念および構築方法を学ぶ。そして、構築したデータベースを効率よく利用するために、VBAの技術を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	データベースの概念
3	データベースの構築
4	VBAの基礎①
5	VBAの基礎②
6	VBAの関数①
7	VBAの関数②
8	VBAのコントロール①
9	VBAのコントロール②
10	VBAのSQL
11	VBAのDAO
12	VBAのADO
13	課題発表①
14	課題発表②
15	課題発表③
16	課題提出

【履修上の注意事項】

- ・ 共通科目の「情報処理基礎」の単位取得者を本講義の登録対象者とする
- ・ 第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・ 演習講義のため、原則として遅刻は厳禁。また、30分以上遅刻した場合は、入室を禁止する
- ・ 1/3以上欠席した場合は課題発表の資格を認めず、課題未発表の場合は単位を認めない
- ・ 毎講義の最後に確認問題を課する

【評価方法】

確認問題30点（2点×15回）、課題発表70点の合計100点満点において80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で判定する。

【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトする）

【参考文献】

- ・ 適宜紹介する
- ・ インターネット上のWebページ作成ヒント集

ベンチャー起業論

担当教員 大嶺 聡

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生ベンチャー企業の起業事例や成功しているベンチャー企業事例などを参考に、ビジネスプラン成功のポイントを学ぶ。また、グループ演習をとおして、ビジネスアイデアの発想法やビジネスプラン作成を体験し、起業におけるビジネスアイデアの重要性とビジネスプランの必要性を理解する。

また、起業家の起業動機や体験談、そこで培った知識やノウハウなどを聴講し、ベンチャーマインドや起業時における成功ポイントを学ぶ。

【授業の展開計画】

始めにベンチャー企業の成功のポイントを講義し、グループ演習をとおして、ビジネスアイデア発想法とビジネスプラン作成方法について学習する。また、起業家に起業の動機や体験談などを講話してもらい、起業時の取り組み方や考え方など、具体的な成功ポイントを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	概要説明 講義内容及び講義計画の説明
2	講義1 (ベンチャー企業とは、ベンチャー起業家事例)
3	講義2 (成功する経営戦略①)
4	講義3 (成功する経営戦略②、ビジネスアイデア発想法)
5	講演1 (ベンチャー企業経営：藤井 昭文氏：(株)トイファクトリー 代表取締役)
6	講演2 (ベンチャー企業経営：山川 朝賢氏：(株)アイティース 代表取締役)
7	講義4 (ビジネスプランの作り方①)
8	講義5 (ビジネスプランの作り方②、グループ演習の進め方)
9	演習1 (ビジネスアイデアの発表、グループ編成)
10	演習2 (グループ演習)
11	演習3 (グループ演習、ビジネスプランの内容報告)
12	演習4 (グループ演習、最終発表まとめ)
13	演習5 (ビジネスアイデア・コンテスト発表 ①)
14	演習6 (ビジネスアイデア・コンテスト発表 ②)
15	講義6 (ビジネスアイデア・コンテスト表彰・講評、講義まとめ)
16	

【履修上の注意事項】

- ・講義の進み具合や外部講師の都合によりカリキュラムを一部変更する場合があります。
- ・本講義中における私語、携帯電話やメールなど、他の受講生に迷惑をかける行為は禁止します。グループ演習の運営・進行方法等については、グループの自主性に任せますが、他グループやグループ内メンバーに不快を与えるような上記行為等は厳禁です。

【評価方法】

- ・筆記試験は行いません。・課題として、受講者全員にビジネスアイデアを提出してもらいます。
- ・全グループにグループ演習で作成したワークシートやビジネスプランを提出してもらいます。また、最後にグループ毎にビジネスプランを発表してもらいます。・ビジネスプランコンテストの成績、グループ演習での取り組み姿勢、提出物、受講態度、出席状況等を考慮し、総合評価いたします。・講義を4回以上欠席した場合は、無条件で不可となります。

【テキスト】

- ・テキストは講義の際に配布いたします。

【参考文献】

なし

簿記原理 I

担当教員 上江洲 由正

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について商業簿記を中心に講義する。具体的には、資産、負債、純資産（資本）、収益および費用の意味内容、経営活動の記帳ルールとプロセス、決算、経営活動を情報化した貸借対照表と損益計算書の作成を講義する。簿記は実学であるので、練習問題をできるだけ多く解いてもらい理解を深めてもらう。

【授業の展開計画】

第 1回 複式簿記の意味と目的	第16回 商品売買の記帳（3分法）
第 2回 資産・負債・資本	第17回 売上総利益の計算
第 3回 貸借対照表の作成	第18回 売上帳・仕入帳等の作成
第 4回 収益、費用と損益計算書の作成	第19回 人名勘定と掛取引の記帳
第 5回 取引と勘定	第20回 手形の記帳
第 6回 仕訳と転記	第21回 同上
第 7回 同上	第22回 その他の債権・債務の記帳
第 8回 試算表の作成	第23回 第22回までの復習問題
第 9回 6桁精算表の作成	第24回 減価償却費の計算と記帳
第10回 決算	第25回 貸倒引当金の記帳
第11回 同上	第26回 有価証券の記帳
第12回 現金および預金の記帳	第27回 費用、収益の見越
第13回 同上	第28回 費用、収益の繰延
第14回 第13回までの総まとめ	第29回 8桁精算表の作成
第15回 総合問題	第30回 財務諸表作成問題
	第31回 期末テスト

【履修上の注意事項】

1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席のこと。
 なお、テキストの持参がなければ講義は全く理解できず、したがって出席扱いとはならないので注意すること。

【評価方法】

テスト、受講態度、宿題などの提出状況に基づき評価を行う。

【テキスト】

上江洲由正、大城建夫編著『簿記の技法とシステム（第3版）』同文館

【参考文献】

その都度紹介する。

簿記原理Ⅱ

担当教員 上江洲 由正

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の仕組みや原理について、特殊商品売買や株式会社の簿記および本支店の簿記を中心に講義する。練習問題をできるだけ多く解いてもらい理解を深めてもらう。

【授業の展開計画】

第 1回	有価証券の特殊取引 (その 1)	第16回	株式会社の資本
第 2回	有価証券の特殊取引 (その 2)	第17回	利益の処分
第 3回	特殊な手形取引	第18回	損失の処理
第 4回	特殊商品売買 (その 1)	第18回	消費税など
第 5回	特殊商品売買 (その 2)	第20回	株式会社の税金
第 6回	特殊商品売買 (その 3)	第21回	本支店会計 (その 1)
第 7回	有形固定資産	第22回	本支店会計 (その 2)
第 8回	無形固定資産	第23回	本支店会計 (その 3)
第 9回	投資その他の資産	第24回	本支店会計 (その 4)
第10回	繰延資産	第25回	第23回までのまとめ
第11回	社債 (その 1)	第26回	貸借対照表 (その 1)
第12回	社債 (その 2)	第27回	貸借対照表 (その 2)
第13回	引当金	第28回	損益計算書 (その 1)
第14回	第12回までのまとめ	第29回	損益計算書 (その 2)
第15回	総合練習問題	第30回	総まとめ
		第31回	期末テスト

【履修上の注意事項】

簿記原理Ⅰの履修が条件となる。1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席のこと。なお、テキストの持参がなければ講義は全く理解できず、したがって出席扱いとはならないので注意すること。

【評価方法】

テスト、受講態度、宿題などの提出状況に基づき評価を行う。

【テキスト】

上江洲由正、大城建夫編著『簿記の技法とシステム (第3版)』同文館

【参考文献】

その都度紹介する。

マルチメディア論

担当教員 中西 利文

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報とメディア，人間と人間，及び人間とコンピュータのコミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し，その利用による効果を考える。情報の表現，つまり，各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や，データに対するデジタル処理に関する問題，マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識（ハードウェアとソフトウェア），メディアリテラシーと社会倫理，画像及び動画データ処理の説明も行う。

【授業の展開計画】

- 1 講義ガイダンス マルチメディアとは？
- 2 コミュニケーションと情報？
- 3 インターネットとマルチメディア？
- 4 マルチメディアの構成要素（1）音声情報
- 5 マルチメディアの構成要素（2）画像情報
- 6 マルチメディアの構成要素（3）映像情報
- 7 中間試験
- 8 CG作成技術について（1）グラフィックソフト、CAD
- 9 CG作成技術について（2）3Dモデリングソフト
- 10 CG作成技術について（3）アニメーション
- 11 映像処理 ストリーミング技術
- 12 マルチメディアの活用例
- 13 マルチメディアの発達をもたらす社会
- 14 最終試験
- 15 試験解答・総括

【履修上の注意事項】

情報処理概論，プログラミング理論を履修した者のみ登録を受け付け，この科目を履修しないとマルチメディア実習（教職科目；集中講義）は登録できない。マルチメディア実習を受けるための基礎科目である。なお，第1週目に出席しない場合には登録を取り消す場合がある。

【評価方法】

試験および出席状況を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

テキストは講義開始時に指定する。なお，ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

【参考文献】

講義時に使用するデータで随時紹介する。